
在宅介護実態調査

結果報告書

令和5年3月

紀美野町

目次

調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査期間と調査方法	1
3. 調査対象者及び帳票の配布数と回収数	1
4. 集計・分析における留意点	1
(1) サービス利用の回数・組み合わせ等に着目した集計・分析に係る用語の定義	1
(2) サービス利用のカテゴリ化に係る注意点	2
(3) 施設等検討の状況に係る用語の定義	2
(4) その他	2
I 介護保険事業計画の策定に向けた検討	3
1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	3
1.1 集計・分析の狙い	3
1.2 集計結果と着目すべきポイント	3
(1) 基礎集計	3
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化	5
(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化	8
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係	13
(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	17
(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係	20
(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	24
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	31
2.1 集計・分析の狙い	31
2.2 集計結果と着目すべきポイント	32
(1) 基本集計	32
(2) 就労状況別の就労継続見込み	35
(3) 「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係	38
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係	40
(5) 就労状況別の、施設等検討の状況	42
(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整	44
3 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	47
3.1 集計・分析の狙い	47
3.2 集計結果と着目すべきポイント	47
(1) 基礎集計	47
(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」	49
(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」	52
(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」	56
4 サービス未利用の理由など	60

4.1	集計・分析の狙い	60
4.2	集計結果（参考）	60

調査概要

1. 調査の目的

要介護者の在宅生活や介護者の就労継続に有効な介護サービスを検討することを目的としています。

2. 調査期間と調査方法

・調査期間

令和5年1月15日から令和5年2月28日まで

・調査方法

介護支援専門員による聞き取り

3. 調査対象者及び帳票の配布数と回収数

令和5年1月現在、在宅で生活している要支援・要介護認定を受けている者

回収数	有効回答数
385 件	384 件

4. 集計・分析における留意点

(1) サービス利用の回数・組み合わせ等に着目した集計・分析に係る用語の定義

本集計・分析では、介護保険サービスの利用回数・利用の組み合わせ等に着目した集計・分析を行うため、介護保険サービスを大きく、「訪問系」「通所系」「短期系」の3つに分類して集計しています。なお、介護保険サービスの中には介護予防・日常生活支援総合事業を通じて提供される「介護予防・生活支援サービス」も含まれます。

それぞれ、用語の定義は以下の通りです。

＜サービス利用の分析に用いた用語の定義＞

用語	定義
未利用	「住宅改修」「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計しています。
訪問系	訪問介護、(介護予防)訪問入浴介護、(介護予防)訪問看護、(介護予防)訪問リハビリテーション、(介護予防)居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計しています。
通所系	通所介護、(介護予防)通所リハビリテーション、(介護予防)認知症対応型通所介護を「通所系」として集計しています。
短期系	(介護予防)短期入所生活介護、(介護予防)短期入所療養介護を「短期系」として集計しています。

その他	小規模多機能	(介護予防) 小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計しています。
	看護多機能	看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計しています。
	定期巡回	定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計しています。

＜サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義＞

用語	定義
未利用	上表に同じ
訪問系のみ	上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計しています。
訪問系を含む組み合わせ	上表の「訪問系（もしくは定期巡回）＋通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）＋短期系」「訪問系（もしくは定期巡回）＋通所系＋短期系」「小規模多機能」「看護多機能」の利用を集計しています。
通所系・短期系のみ	上表の「通所系」「短期系」「通所系＋短期系」の利用を集計しています。

(2) サービス利用のカテゴリー化に係る注意点

(1)の通り、報告書では、介護保険サービスを大きく、「訪問系」「通所系」「短期系」の3つに分類して集計しています。

(3) 施設等検討の状況に係る用語の定義

本集計では、施設等検討の状況について、「入所・入居は検討していない（検討していない）」「入所・入居を検討している（検討中）」「すでに入所・入居申し込みをしている（申請済み）」の3つに分類して集計しています。

(4) その他

この調査報告は、在宅介護実態調査の結果と、認定ソフト 2021 から出力された認定データをもとに、厚生労働省の配布する自動集計分析ソフトを用いて分析しています。

図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

I 介護保険事業計画の策定に向けた検討

1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

1.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができるのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

1.2 集計結果と着目すべきポイント

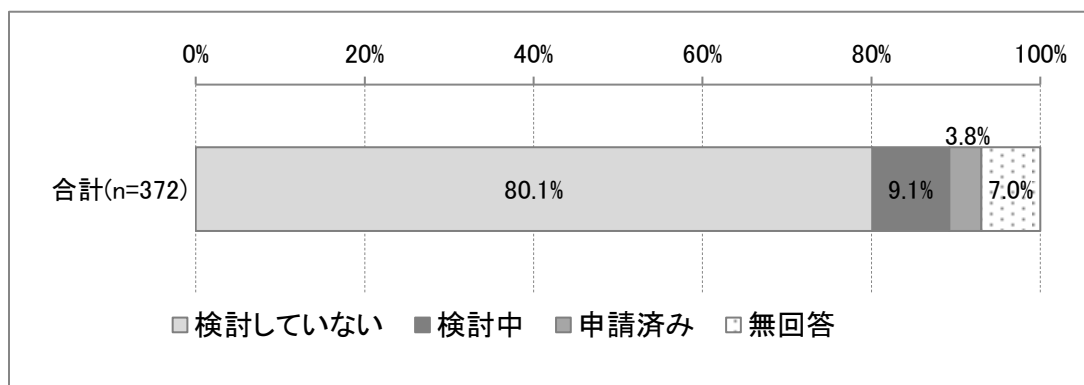
(1) 基礎集計

- 施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っています（図表 1-1～図表 1-3）。
- 要介護度の重度化に伴う、施設等検討状況の変化や世帯類型ごとの施設等検討状況についてその状況を確認します。

【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く 80.1%となっている。次いで、「検討中（9.1%）」、「申請済み（3.8%）」となっている。

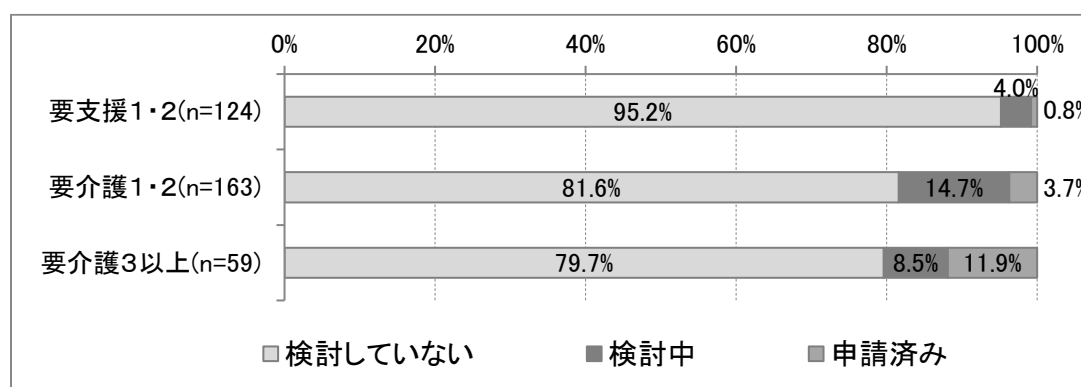
図表 1-1 施設等検討の状況



【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が95.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が4.0%、「申請済み」が0.8%となっている。「要介護１・２」では「検討していない」が81.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が14.7%、「申請済み」が3.7%となっている。「要介護３以上」では「検討していない」が79.7%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が11.9%、「検討中」が8.5%となっている。

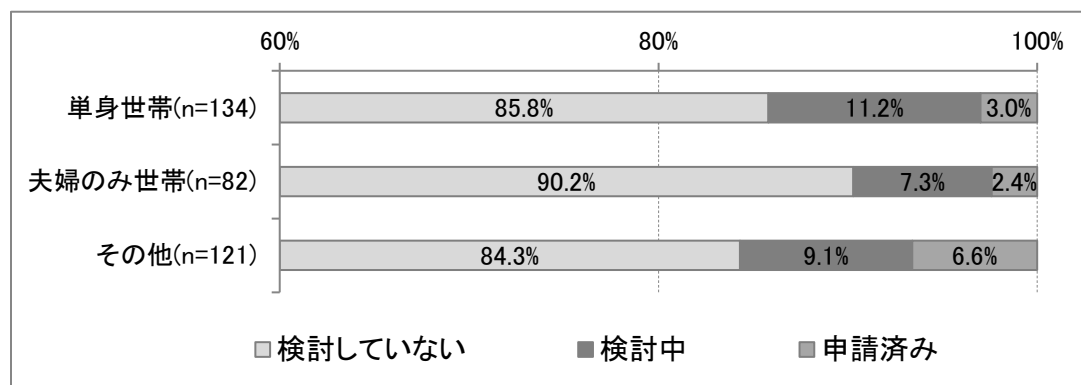
図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況<***>



【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が85.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.2%、「申請済み」が3.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が90.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が7.3%、「申請済み」が2.4%となっている。「その他」では「検討していない」が84.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が9.1%、「申請済み」が6.6%となっている。

図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

【着目すべきポイント】

- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化について、集計分析をしています（図表 1-4、図表 1-5）。
- ここでの「主な介護者が不安に感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等」のことです。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。
- ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安に感じる介護等を把握することができます。
- また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に着目することで、在宅限界点に大きな影響を与えと考えられる「主な介護者が不安に感じる介護」を推測することも可能になります。

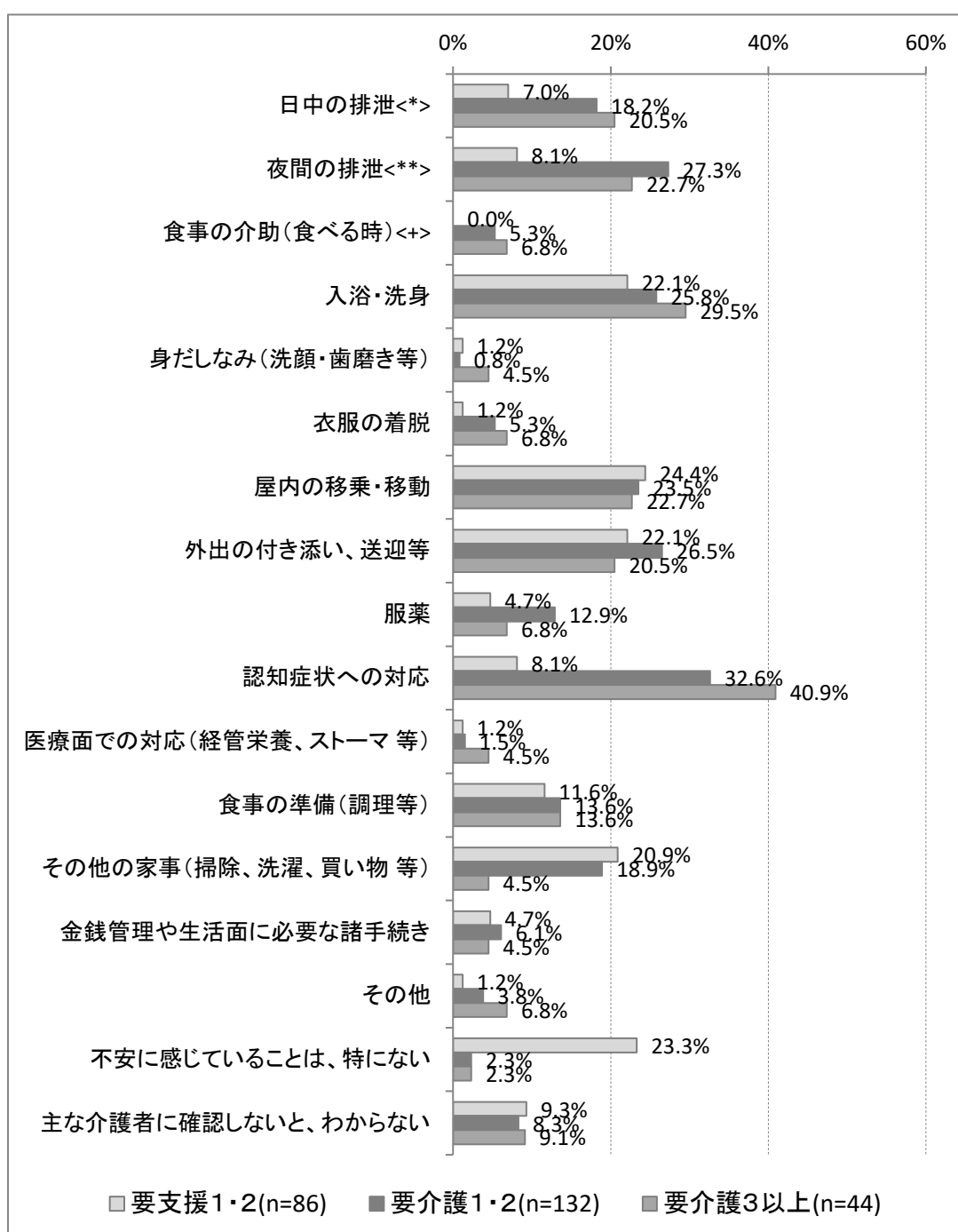
【留意事項】

- なお、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」については、特に、実際に行われている割合が低い可能性が高いと考えられます。したがって、仮に選択した回答者が少ない場合でも、実際に医療ニーズのある要介護者を介護しているケースでは、主な介護者の不安は大きいことも考えられます。
- そのような観点から、在宅限界点に与える影響が過小評価される項目もあると考えられることから、注意が必要です。

【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「屋内の移乗・移動」が24.4%と最も割合が高く、次いで「不安に感じていることは、特にない」が23.3%、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が22.1%となっている。「要介護1・2」では「認知症状への対応」が32.6%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が27.3%、「外出の付き添い、送迎等」が26.5%となっている。「要介護3以上」では「認知症状への対応」が40.9%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が29.5%、「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」が22.7%となっている。

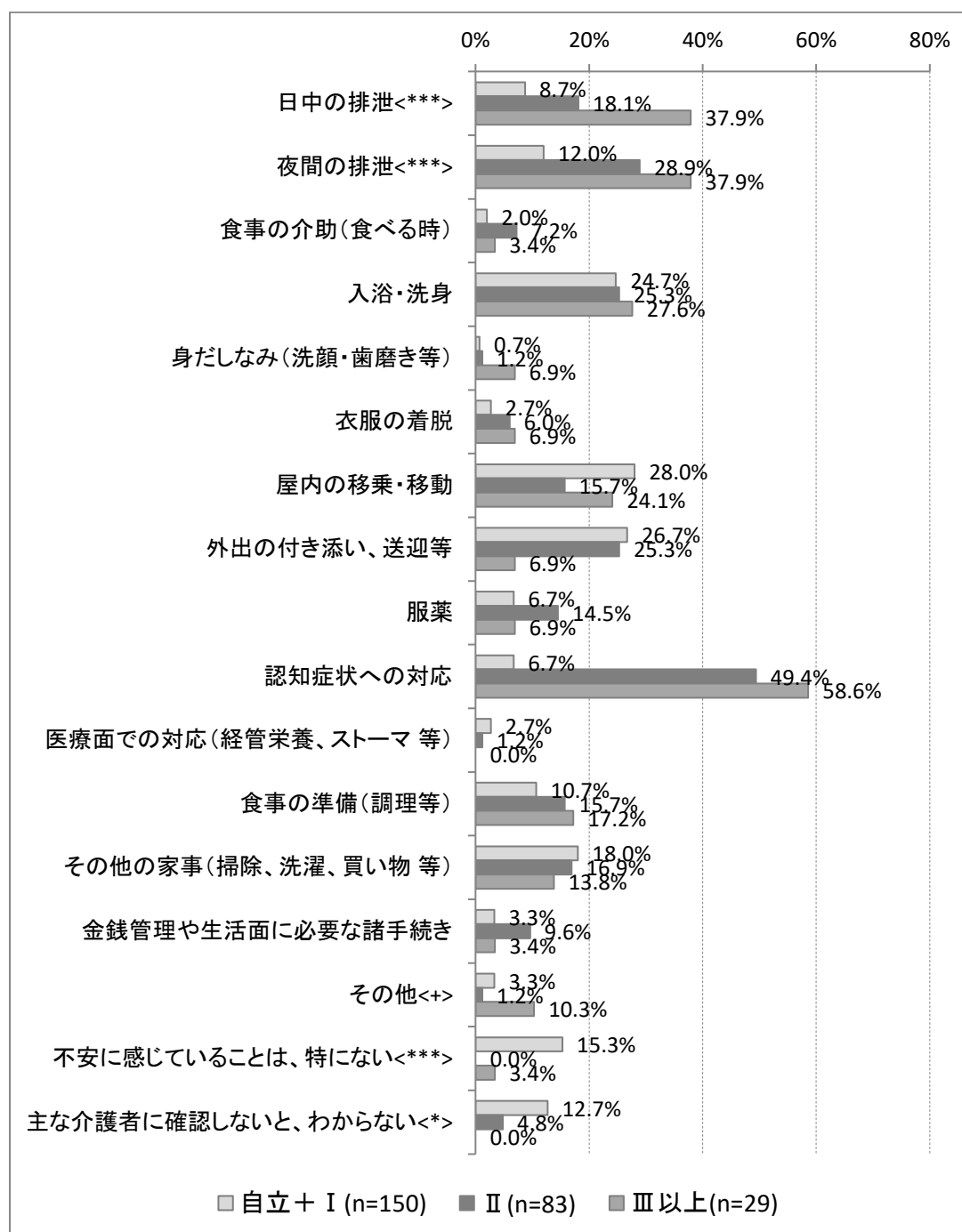
図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「屋内の移乗・移動」が28.0%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が26.7%、「入浴・洗身」が24.7%となっている。「Ⅱ」では「認知症状への対応」が49.4%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が28.9%、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が25.3%となっている。「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が58.6%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」が37.9%、「入浴・洗身」が27.6%となっている。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 1-6、図表 1-7）。
- 特に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- さらに、例えば今後の中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

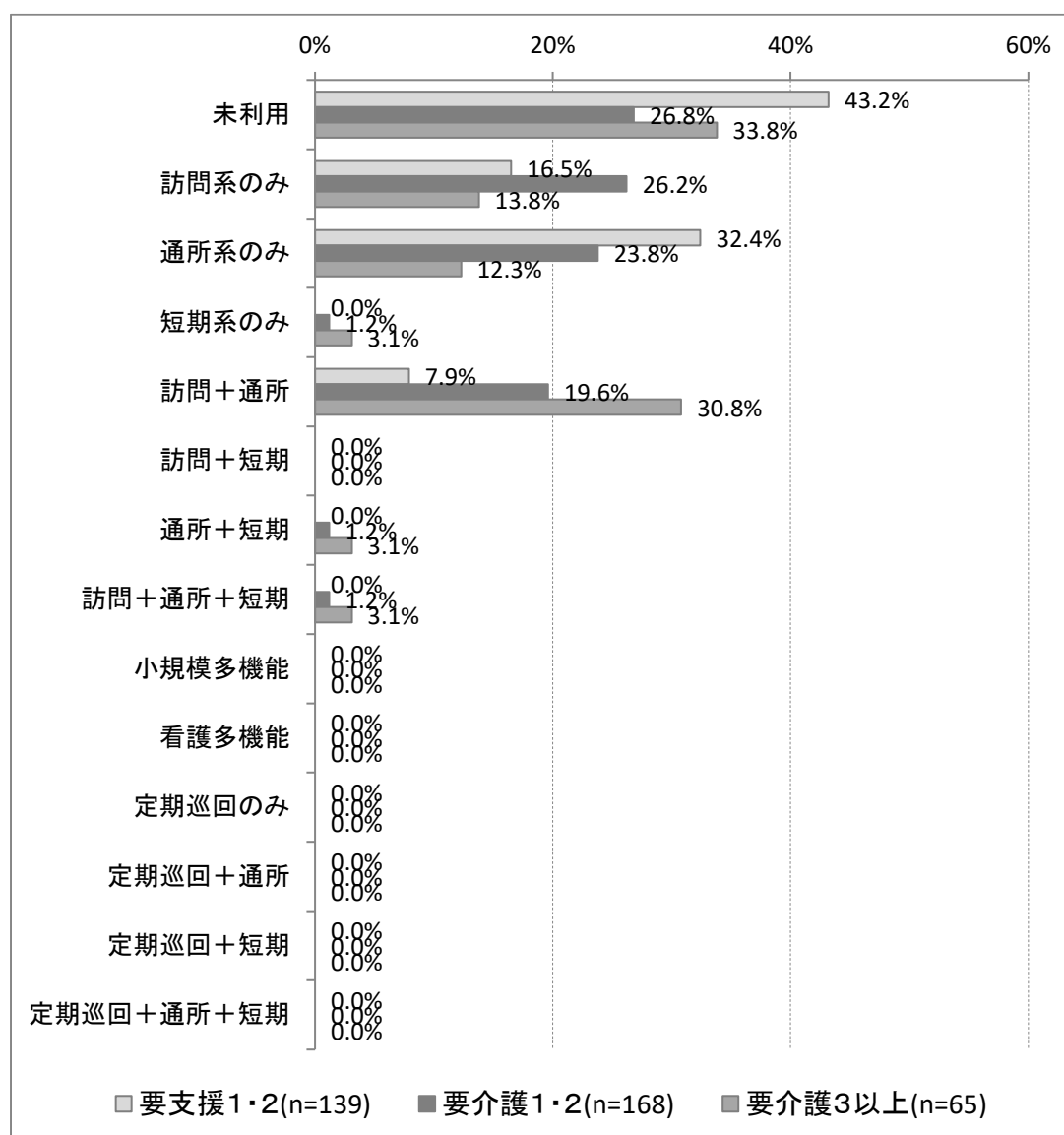
【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が43.2%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が32.4%、「訪問系のみ」が16.5%となっている。「要介護１・２」では「未利用」が26.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が26.2%、「通所系のみ」が23.8%となっている。「要介護３以上」では「未利用」が33.8%と最も割合が高く、次いで「訪問＋通所」が30.8%、「訪問系のみ」が13.8%となっている。

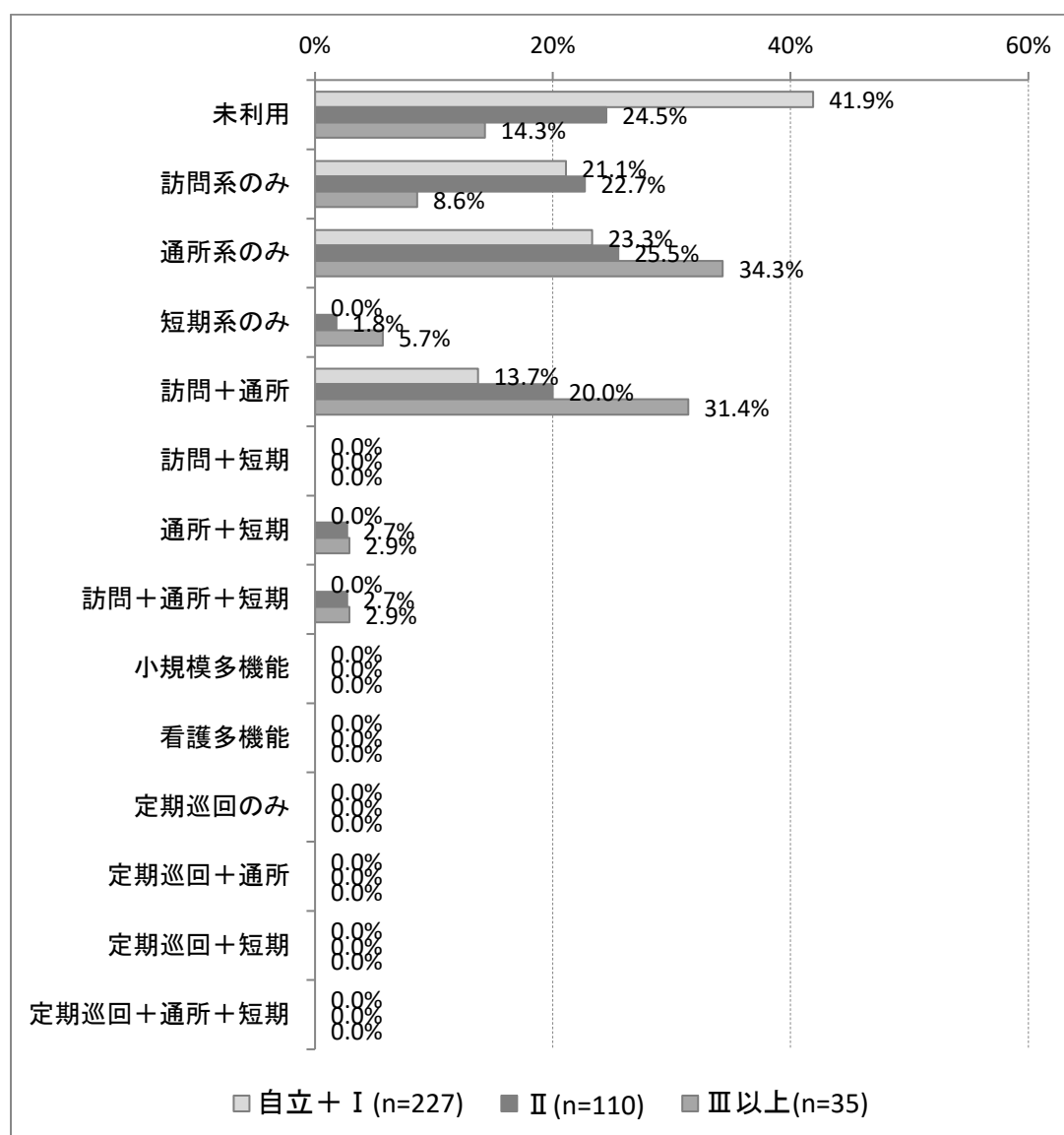
図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<***>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が41.9%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が23.3%、「訪問系のみ」が21.1%となっている。「Ⅱ」では「通所系のみ」が25.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」が24.5%、「訪問系のみ」が22.7%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系のみ」が34.3%と最も割合が高く、次いで「訪問＋通所」が31.4%、「未利用」が14.3%となっている。

図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<***>



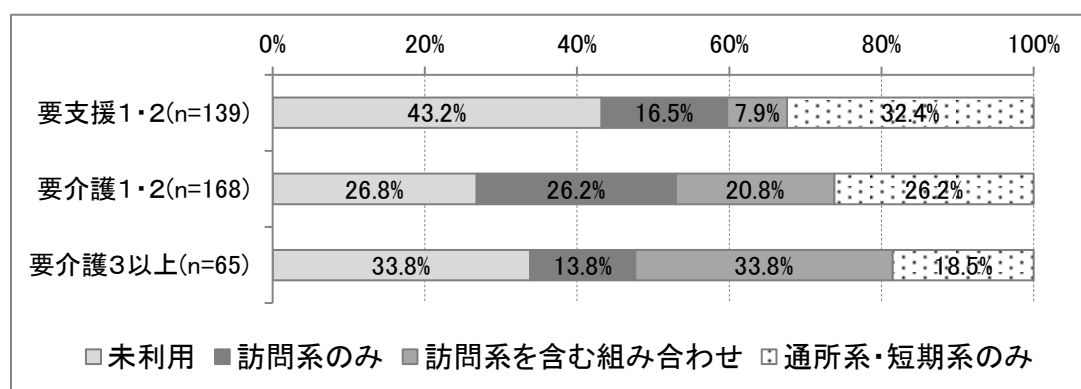
【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています（図表 1-8、図表 1-9）。
- 具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類したものです。
- 組み合わせのパターンが細分化された集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と比較して、上記のような視点から、重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化の傾向等を分かりやすく示すことを目的としたものです。
- 前掲の集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と同様に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- また、中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が43.2%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が32.4%、「訪問系のみ」が16.5%となっている。「要介護1・2」では「未利用」が26.8%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が26.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が20.8%となっている。「要介護3以上」では「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が33.8%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が18.5%、「訪問系のみ」が13.8%となっている。

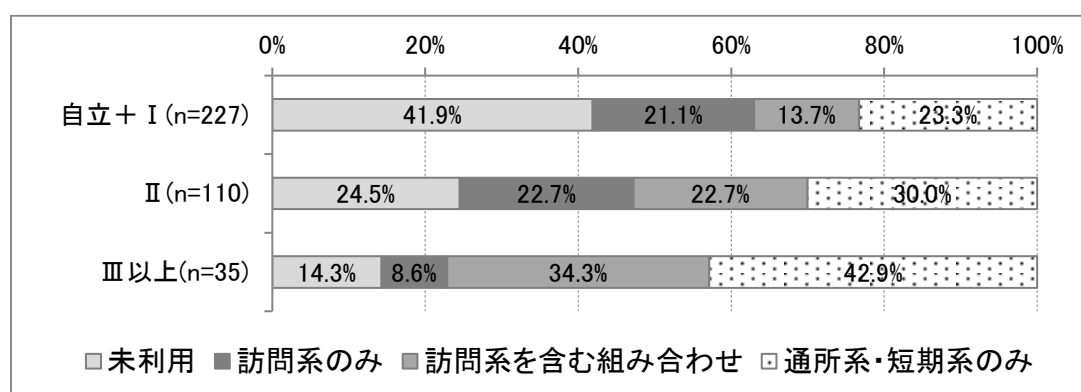
図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ<***>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が41.9%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が23.3%、「訪問系のみ」が21.1%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が30.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が24.5%、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が22.7%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が42.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が34.3%、「未利用」が14.3%となっている。

図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ<***>



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-10～図表 1-12 は、「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析したもので、特に「サービス利用の組み合わせ」ごとの「施設等検討の状況」の比較が容易です。
- また、図表 1-13～図表 1-15 は、表側と表頭を逆にして集計したもので、「施設等検討の状況」別の「サービス利用の組み合わせ」をみることができます。これにより、例えば施設等への入所・入居を「検討していない」ケースのような「適切な在宅生活の継続を実現している」と考えられる要介護者について、実際に「どのような組み合わせのサービスを利用しているか」を把握することができます。
- したがって、例えば「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

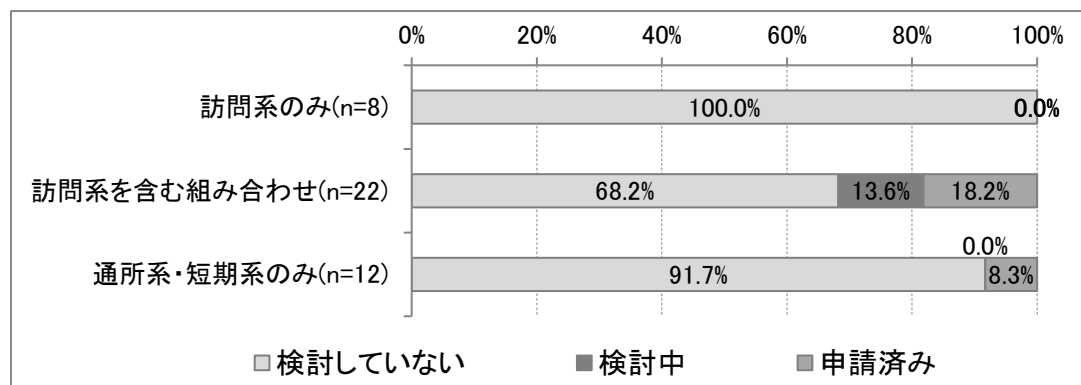
【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論を交えながら、地域ごとにその効果等についての考察を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が100.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が68.2%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が18.2%、「検討中」が13.6%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が91.7%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が8.3%となっている。

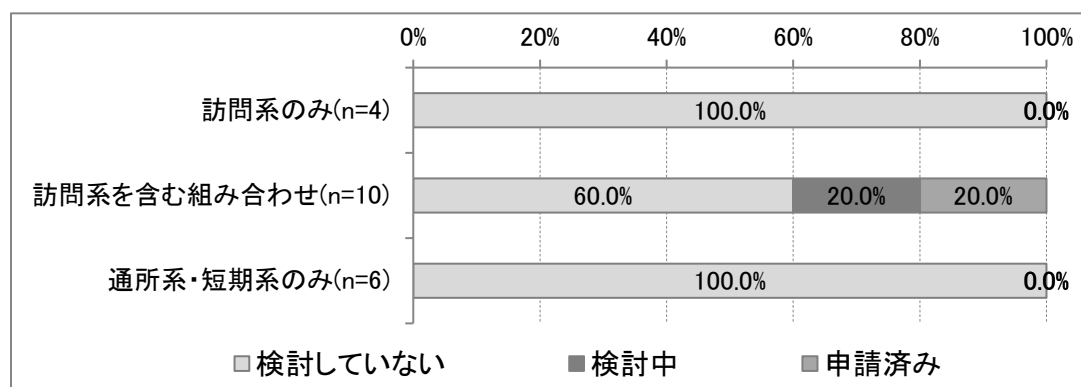
図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が100.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が20.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が100.0%となっている。

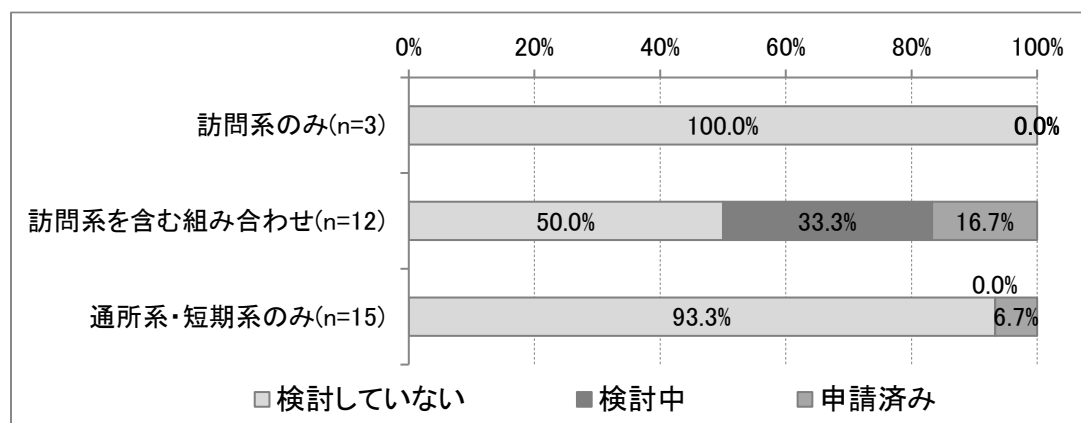
図表 1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が100.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が16.7%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が93.3%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が6.7%となっている。

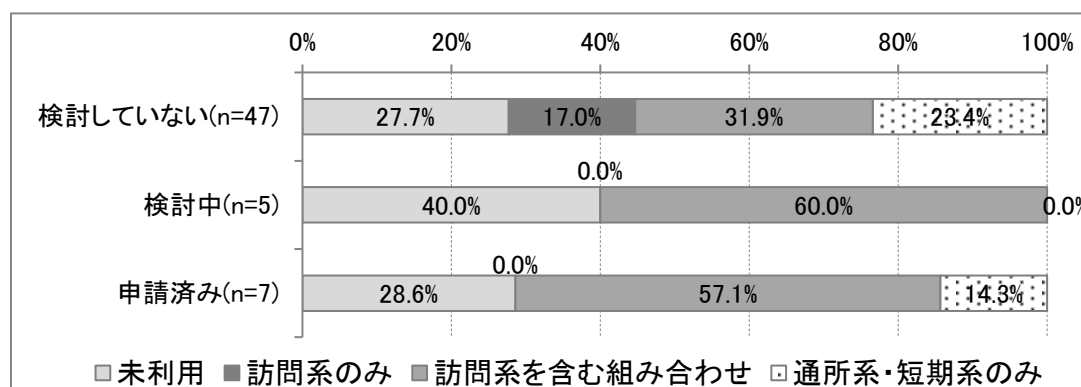
図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）<+>



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が31.9%と最も割合が高く、次いで「未利用」が27.7%、「通所系・短期系のみ」が23.4%となっている。「検討中」では「訪問系を含む組み合わせ」が60.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が40.0%となっている。「申請済み」では「訪問系を含む組み合わせ」が57.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が28.6%、「通所系・短期系のみ」が14.3%となっている。

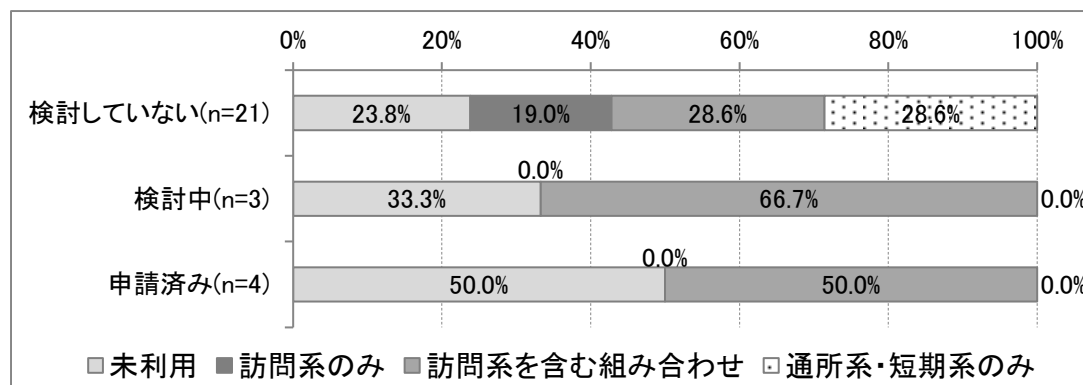
図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が28.6%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が23.8%、「訪問系のみ」が19.0%となっている。「検討中」では「訪問系を含む組み合わせ」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が33.3%となっている。「申請済み」では「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が50.0%となっている。

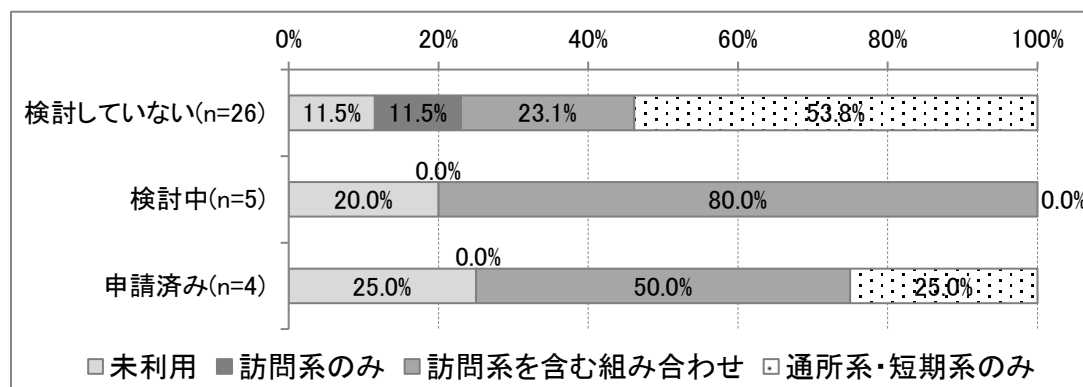
図表 1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「通所系・短期系のみ」が53.8%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が23.1%、「未利用」、「訪問系のみ」が11.5%となっている。「検討中」では「訪問系を含む組み合わせ」が80.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が20.0%となっている。「申請済み」では「訪問系を含む組み合わせ」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「通所系・短期系のみ」が25.0%となっている。

図表 1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、集計分析をしています（図表 1-16、図表 1-17）。それぞれ、要介護 3 以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の 1 つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- したがって、「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

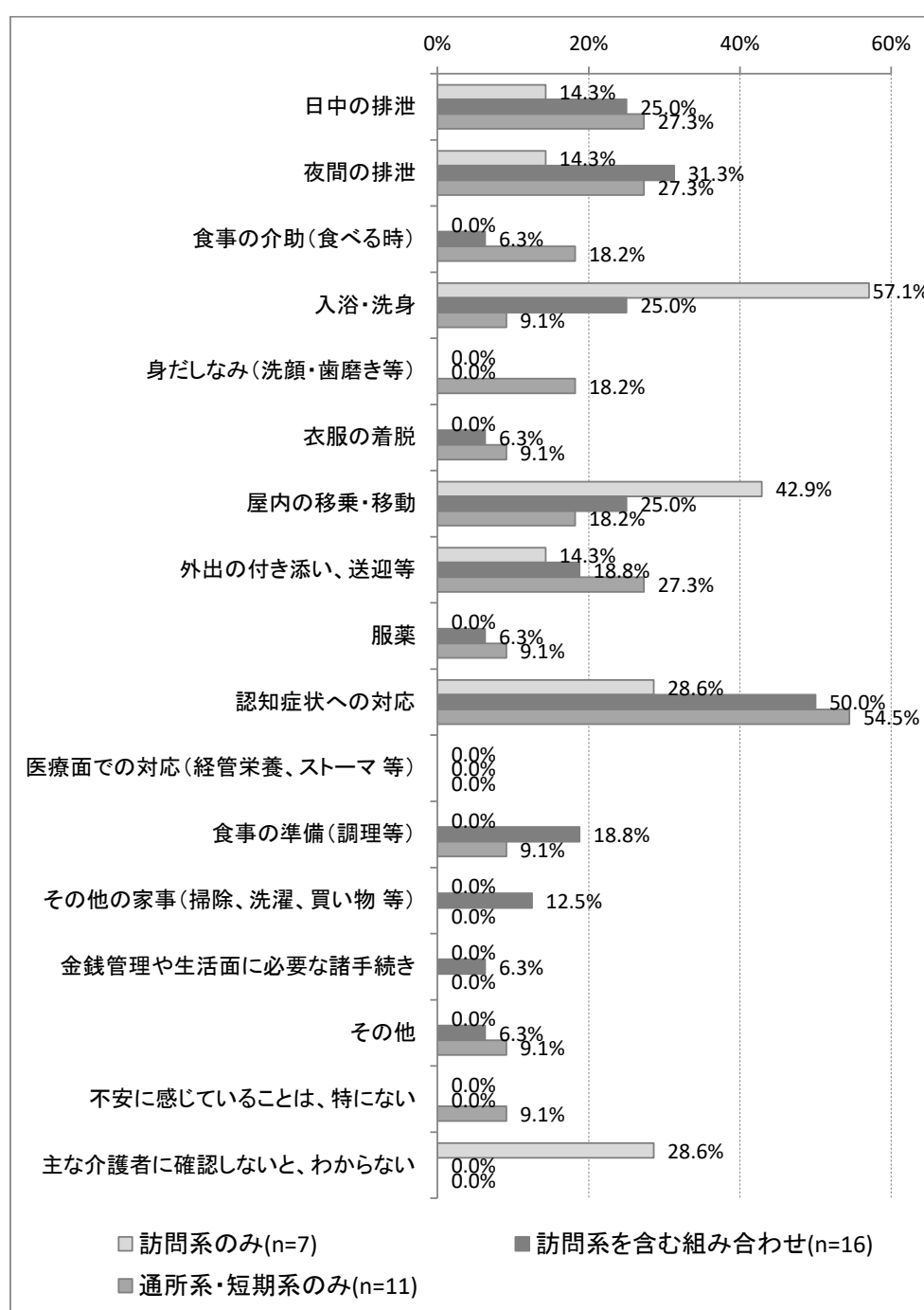
【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、〇〇の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、〇〇の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「入浴・洗身」が57.1%と最も割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」が42.9%、「認知症状への対応」が28.6%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が50.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が31.3%、「日中の排泄」が27.3%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が54.5%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が27.3%、「日中の排泄」が25.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が54.5%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が27.3%、「日中の排泄」が25.0%となっている。

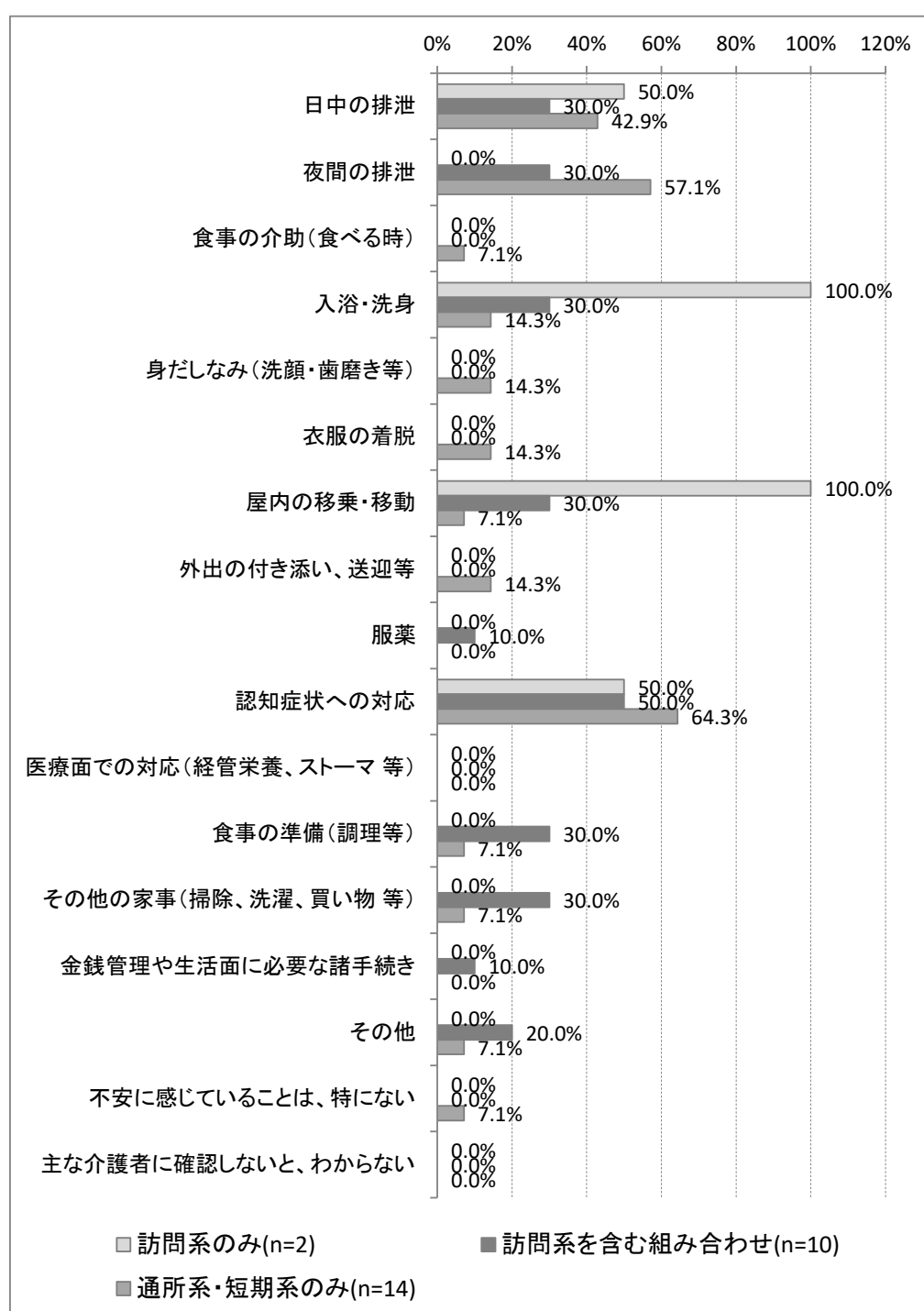
図表 1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」が100.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「認知症状への対応」が50.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が30.0%、「その他」が20.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が64.3%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が57.1%、「日中の排泄」が42.9%となっている。

図表 1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- (4)では、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-18 と図表 1-19 が訪問系、図表 1-20 と図表 1-21 が通所系、図表 1-22 と図表 1-23 が短期系について集計分析した結果です。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、施設等への入所・入居を「検討していない」割合が高くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

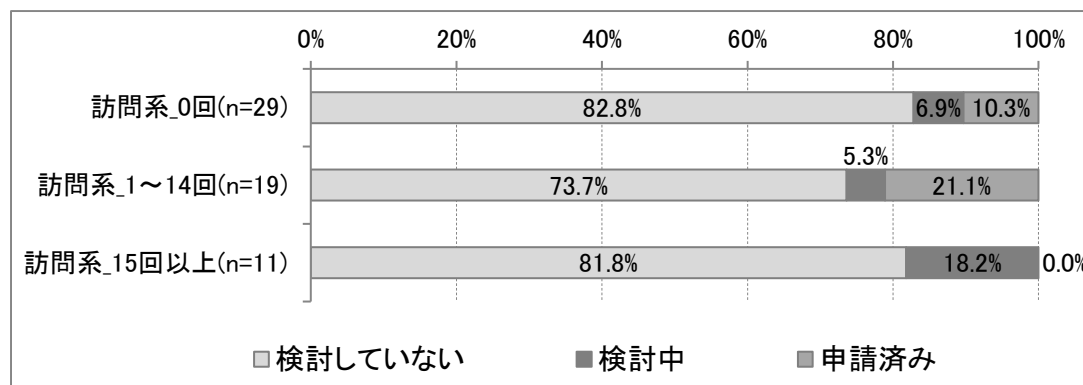
【留意事項】

- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、在宅限界点の向上に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が82.8%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が10.3%、「検討中」が6.9%となっている。「訪問系_1～14回」では「検討していない」が73.7%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が21.1%、「検討中」が5.3%となっている。「訪問系_15回以上」では「検討していない」が81.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.2%となっている。

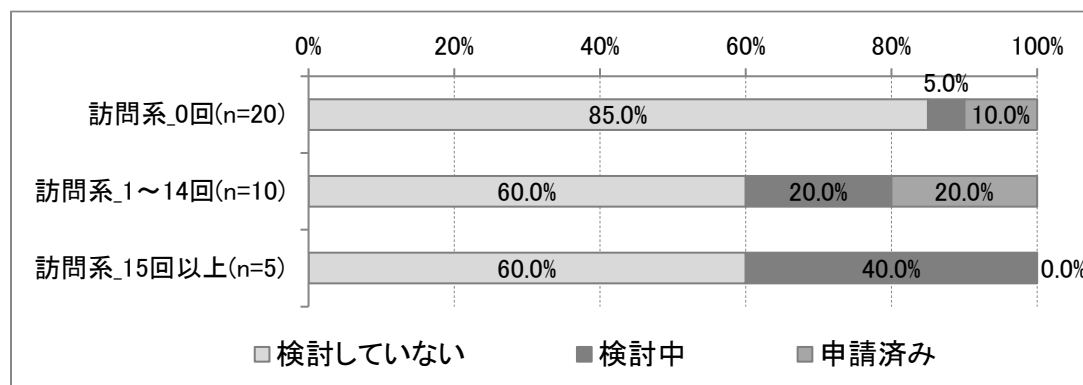
図表 1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が85.0%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が10.0%、「検討中」が5.0%となっている。「訪問系_1～14回」では「検討していない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が20.0%となっている。「訪問系_15回以上」では「検討していない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が40.0%となっている。

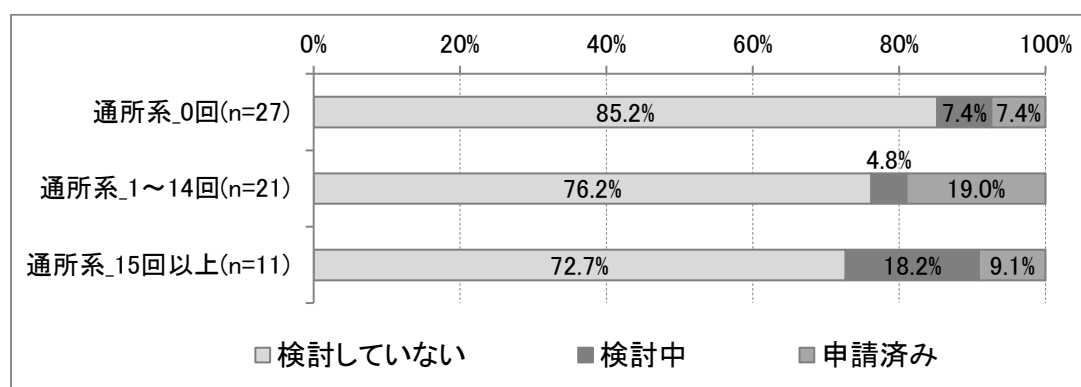
図表 1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が85.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が7.4%となっている。「通所系_1～14回」では「検討していない」が76.2%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が19.0%、「検討中」が4.8%となっている。「通所系_15回以上」では「検討していない」が72.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が18.2%、「申請済み」が9.1%となっている。

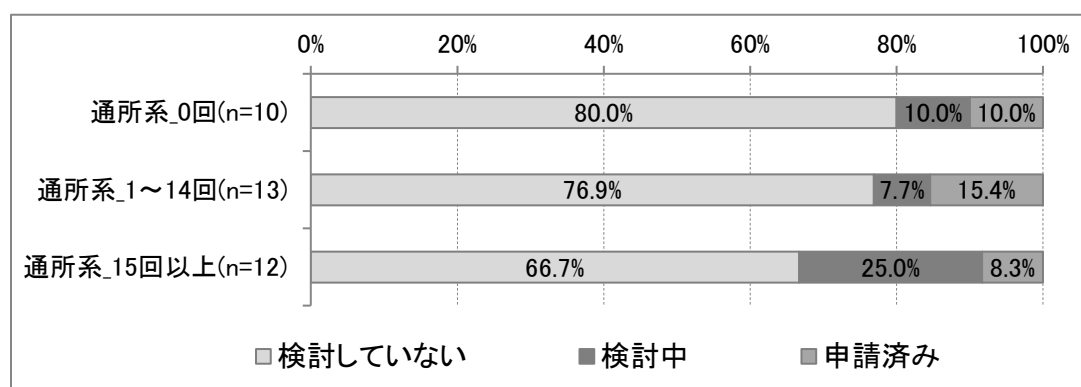
図表 1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が80.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が10.0%となっている。「通所系_1～14回」では「検討していない」が76.9%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が15.4%、「検討中」が7.7%となっている。「通所系_15回以上」では「検討していない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が8.3%となっている。

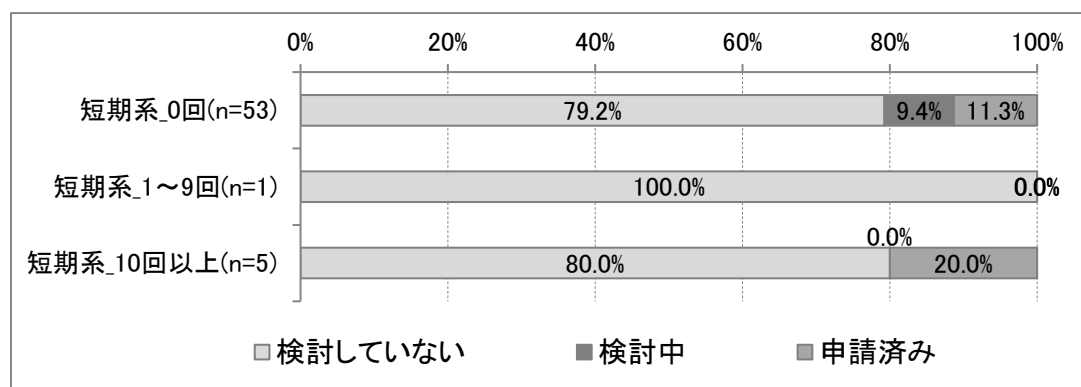
図表 1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が79.2%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が11.3%、「検討中」が9.4%となっている。「短期系_1～9回」では「検討していない」が100.0%となっている。「短期系_10回以上」では「検討していない」が80.0%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が20.0%となっている。

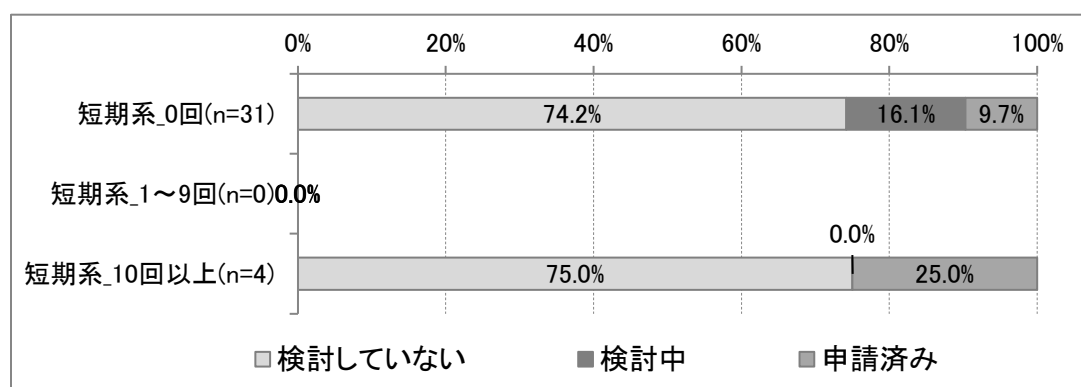
図表 1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が74.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.1%、「申請済み」が9.7%となっている。「短期系_10回以上」では「検討していない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が25.0%となっている。

図表 1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）



(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- (5)では、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-24 と図表 1-25 が訪問系、図表 1-26 と図表 1-27 が通所系、図表 1-28 と図表 1-29 が短期系について集計分析した結果です。それぞれ、要介護 3 以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、「主な介護者が不安に感じる」割合が低くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

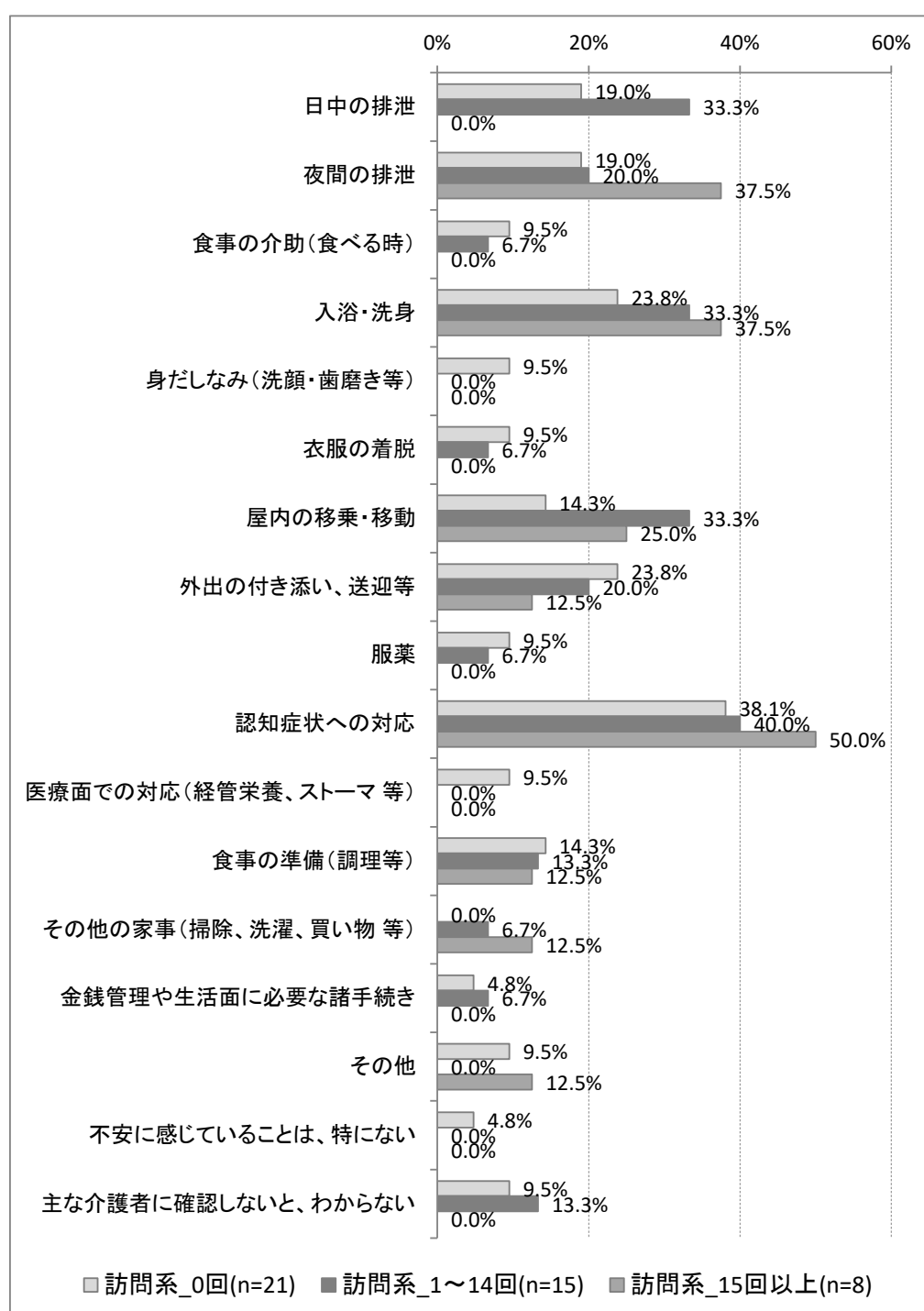
【留意事項】

- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、介護者不安の軽減に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「認知症状への対応」が38.1%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が23.8%、「日中の排泄」、「夜間の排泄」が19.0%となっている。「訪問系_1～14回」では「認知症状への対応」が40.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」が33.3%、「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が20.0%となっている。「訪問系_15回以上」では「認知症状への対応」が50.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が37.5%、「屋内の移乗・移動」が25.0%となっている。

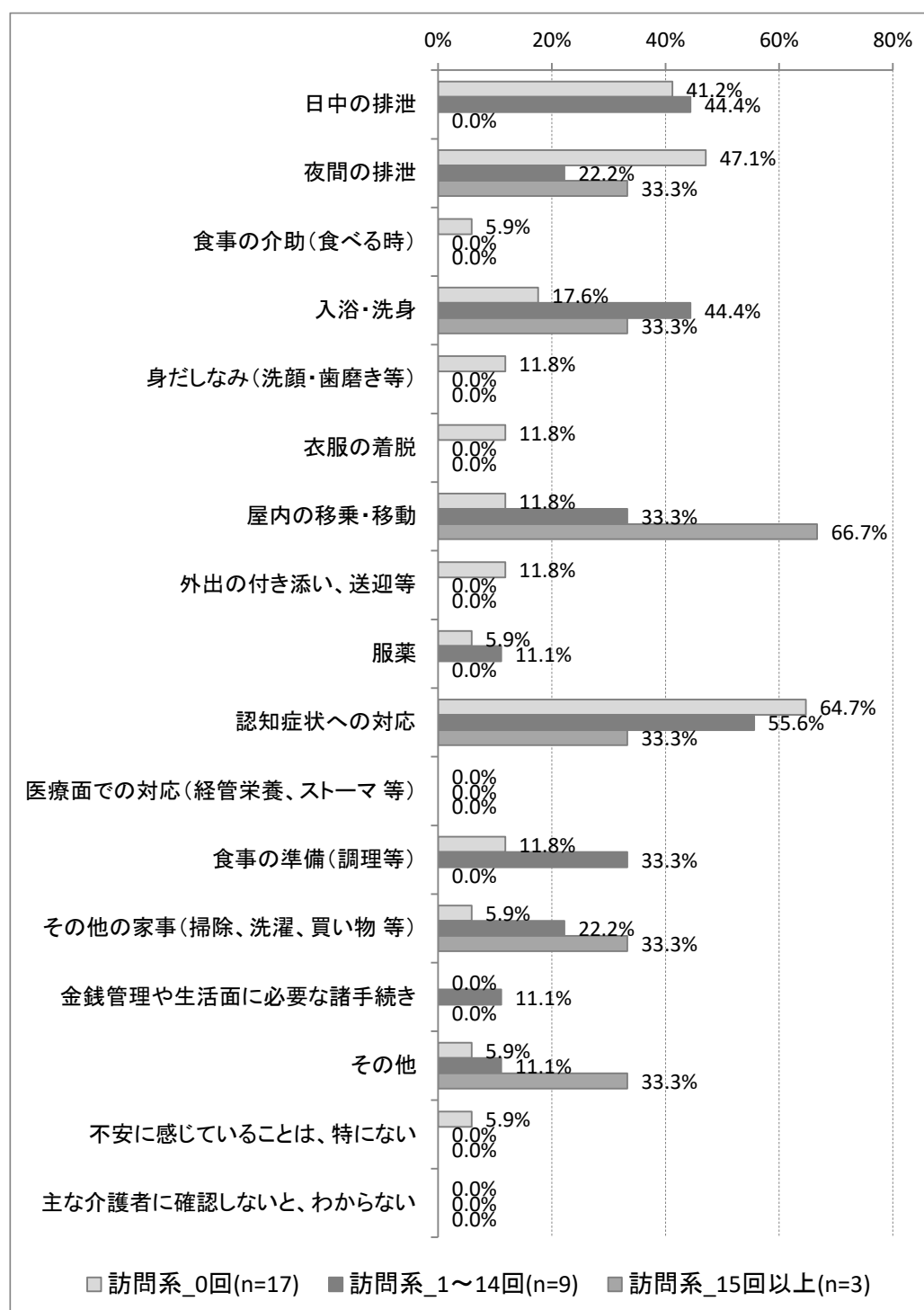
図表 1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「認知症状への対応」が64.7%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が47.1%、「日中の排泄」が41.2%となっている。「訪問系_1～14回」では「認知症状への対応」が55.6%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「入浴・洗身」が44.4%、「屋内の移乗・移動」、「食事の準備（調理等）」が33.3%となっている。「訪問系_15回以上」では「屋内の移乗・移動」が66.7%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「その他」が33.3%となっている。

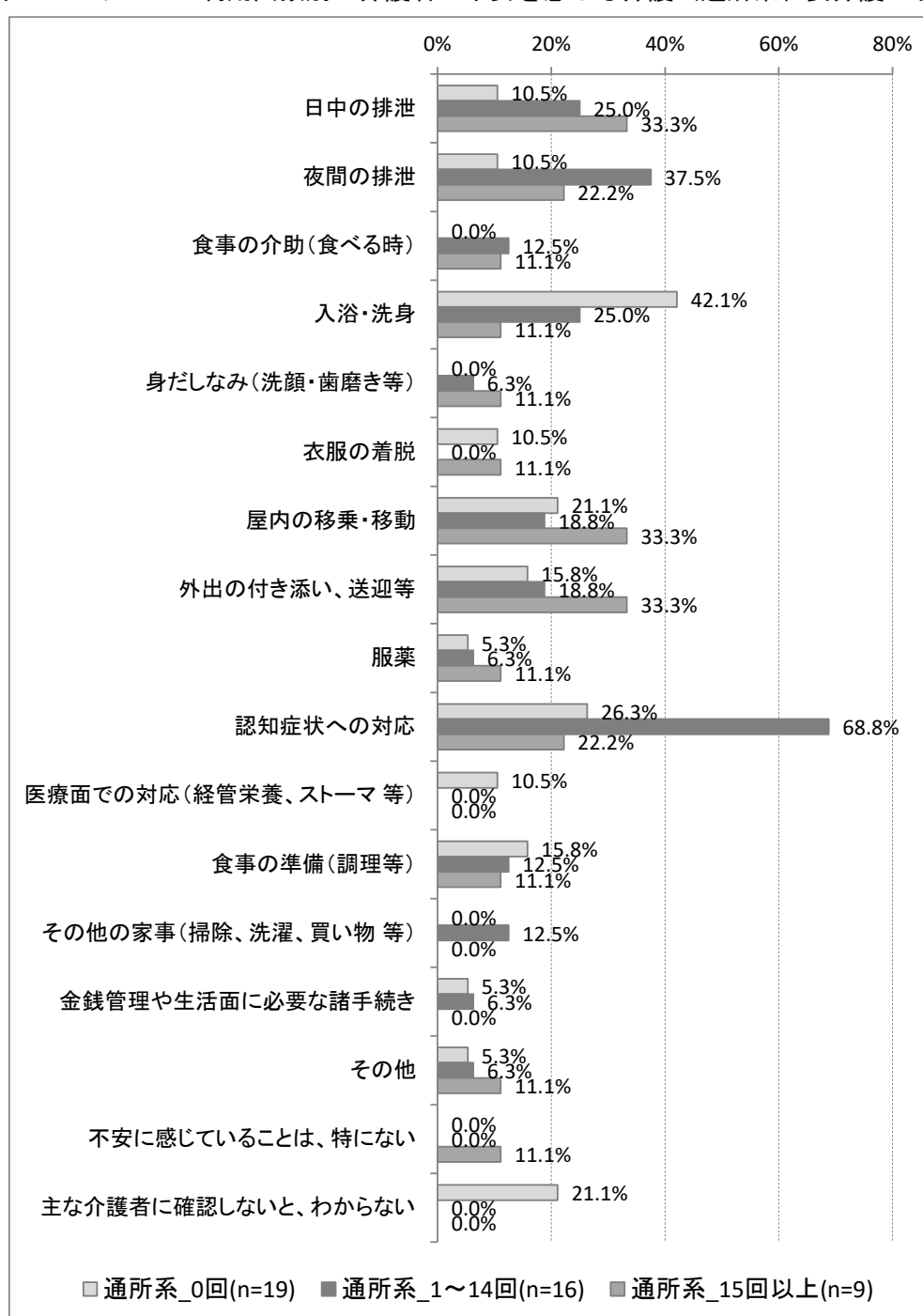
図表 1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「入浴・洗身」が42.1%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が26.3%、「屋内の移乗・移動」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が21.1%となっている。「通所系_1～14回」では「認知症状への対応」が68.8%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が37.5%、「日中の排泄」、「入浴・洗身」が25.0%となっている。「通所系_15回以上」では「日中の排泄」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」が33.3%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が22.2%、「食事の介助(食べる時)」、「入浴・洗身」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「衣服の着脱」、「服薬」、「食事の準備(調理等)」、「その他」、「不安に感じていることは、特にない」が11.1%となっている。

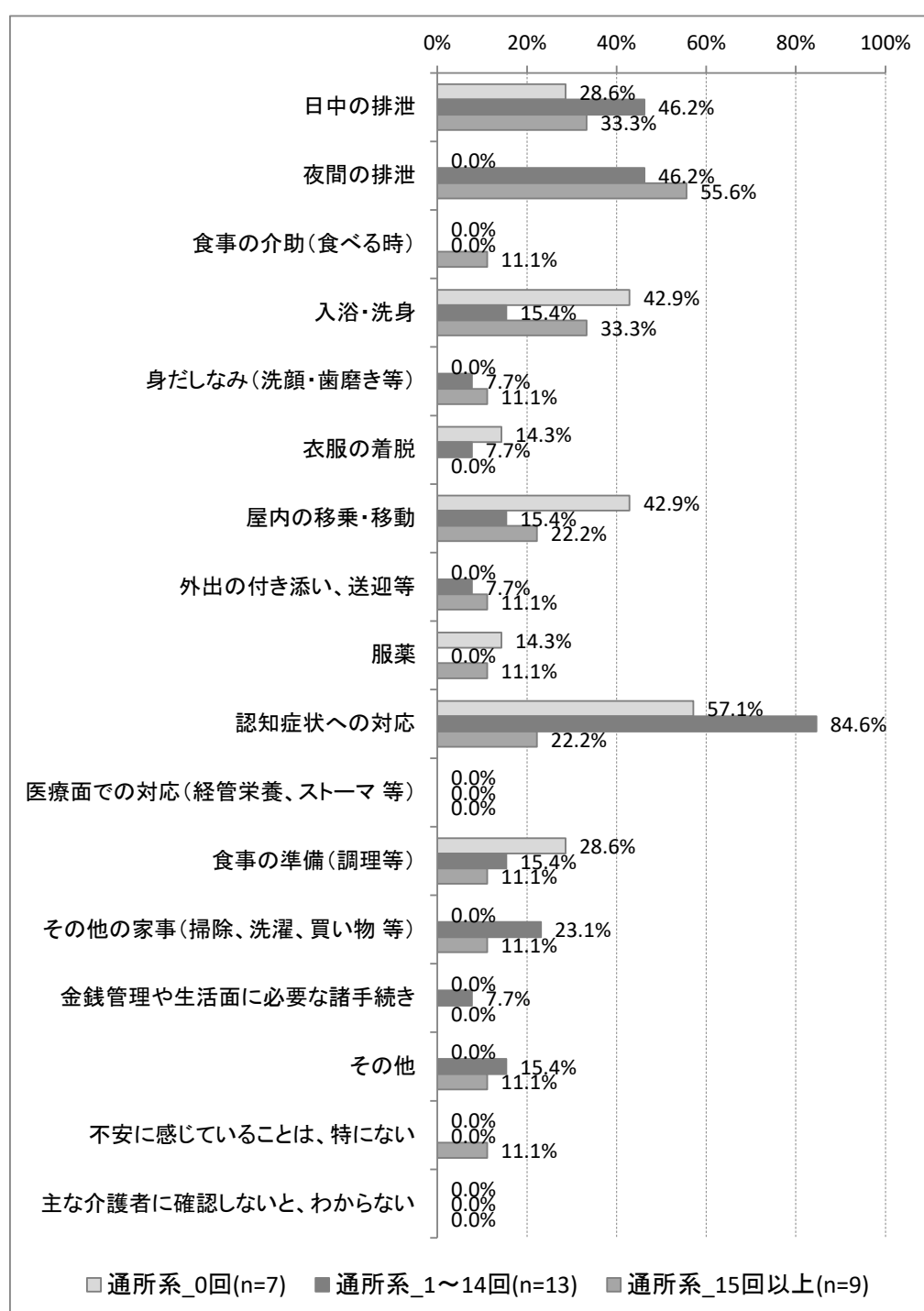
図表 1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、要介護3以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「認知症状への対応」が57.1%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」が42.9%、「日中の排泄」、「食事の準備(調理等)」が28.6%となっている。「通所系_1～14回」では「認知症状への対応」が84.6%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」が46.2%、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が23.1%となっている。「通所系_15回以上」では「夜間の排泄」が55.6%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「入浴・洗身」が33.3%、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」が22.2%となっている。

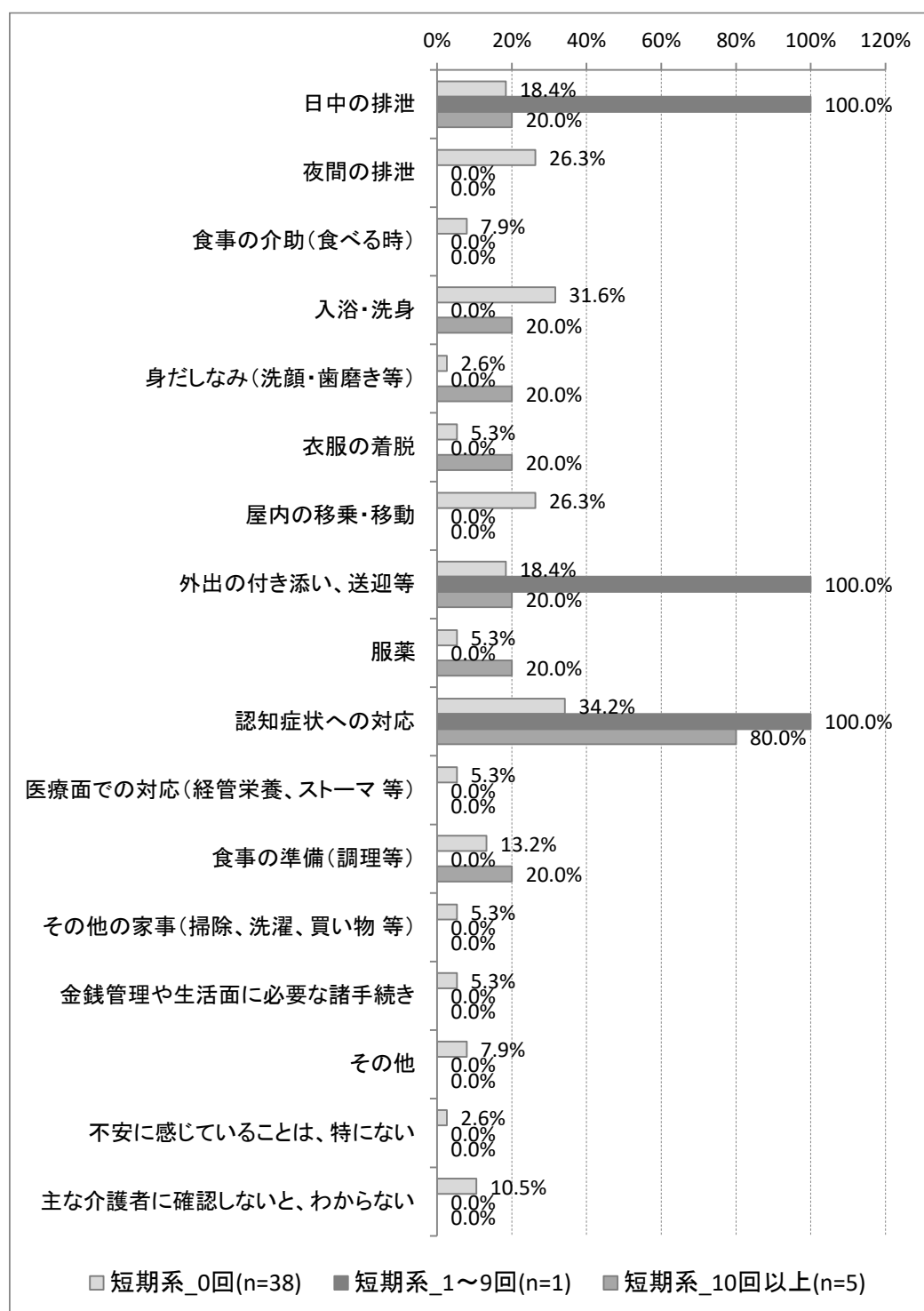
図表 1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、認知症Ⅲ以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「認知症状への対応」が34.2%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が31.6%、「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」が26.3%となっている。「短期系_1～9回」では「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」が100.0%となっている。「短期系_10回以上」では「認知症状への対応」が80.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「衣服の着脱」、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「食事の準備(調理等)」が20.0%となっている。

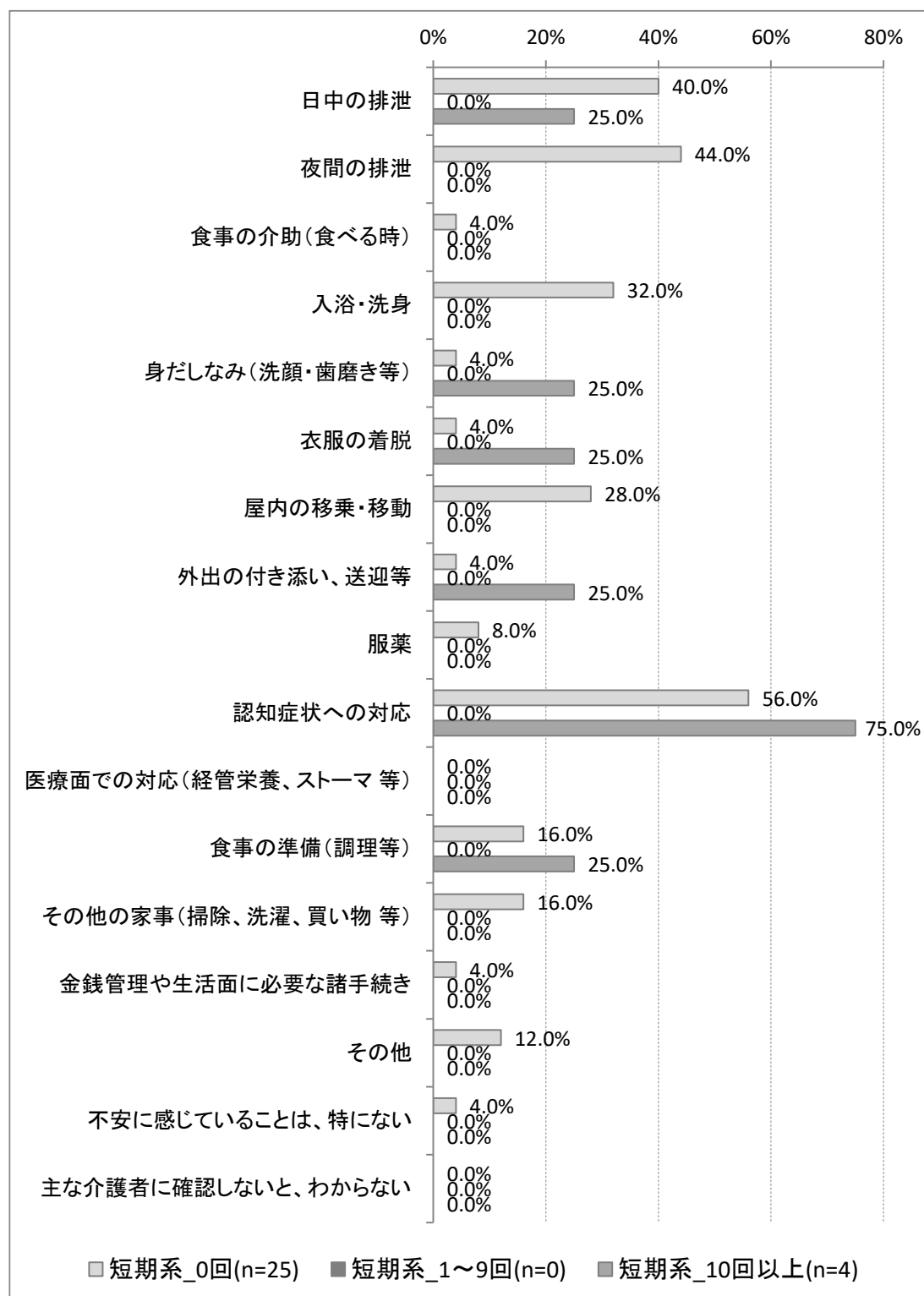
図表 1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、要介護3以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「認知症状への対応」が56.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が44.0%、「日中の排泄」が40.0%となっている。「短期系_10回以上」では「認知症状への対応」が75.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」、「衣服の着脱」、「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備(調理等)」が25.0%となっている。

図表 1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、認知症Ⅲ以上)



2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

2.1 集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「介護保険サービスの利用の有無」や「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

2.2 集計結果と着目すべきポイント

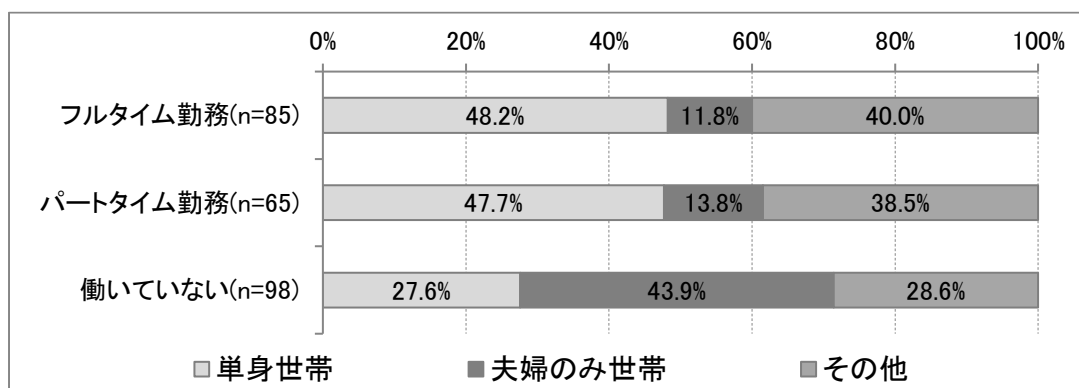
(1) 基本集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。
- 主な介護者の属性や、要介護者の要介護度・認知症自立度について、就労状況別にその状況を確認します。

【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「単身世帯」が48.2%と最も割合が高く、次いで「その他」が40.0%、「夫婦のみ世帯」が11.8%となっている。「パートタイム勤務」では「単身世帯」が47.7%と最も割合が高く、次いで「その他」が38.5%、「夫婦のみ世帯」が13.8%となっている。「働いていない」では「夫婦のみ世帯」が43.9%と最も割合が高く、次いで「その他」が28.6%、「単身世帯」が27.6%となっている。

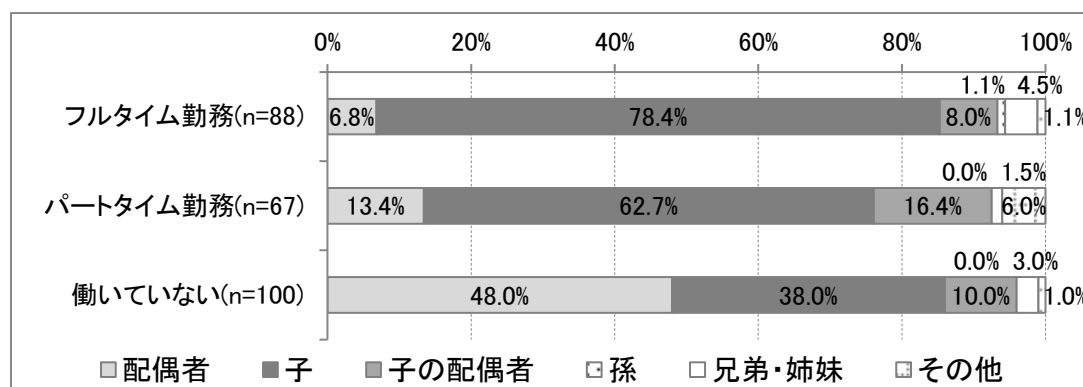
図表 2-1 就労状況別・世帯類型<***>



【就労状況別・★主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が78.4%と最も割合が高く、次いで「子の配偶者」が8.0%、「配偶者」が6.8%となっている。「パートタイム勤務」では「子」が62.7%と最も割合が高く、次いで「子の配偶者」が16.4%、「配偶者」が13.4%となっている。「働いていない」では「配偶者」が48.0%と最も割合が高く、次いで「子」が38.0%、「子の配偶者」が10.0%となっている。

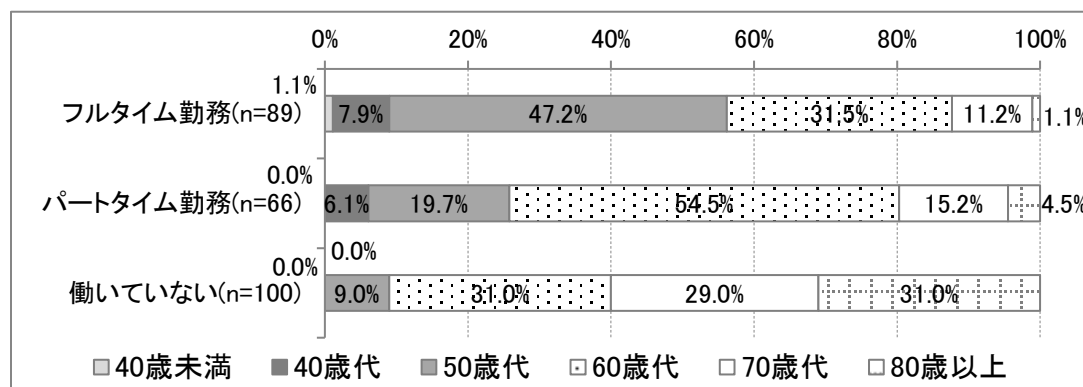
図表 2-2 就労状況別・★主な介護者の本人との関係<***>



【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50 歳代」が47.2%と最も割合が高く、次いで「60 歳代」が31.5%、「70 歳代」が11.2%となっている。「パートタイム勤務」では「60 歳代」が54.5%と最も割合が高く、次いで「50 歳代」が19.7%、「70 歳代」が15.2%となっている。「働いていない」では「60 歳代」、「80 歳以上」が31.0%と最も割合が高く、次いで「70 歳代」が29.0%、「50 歳代」が9.0%となっている。

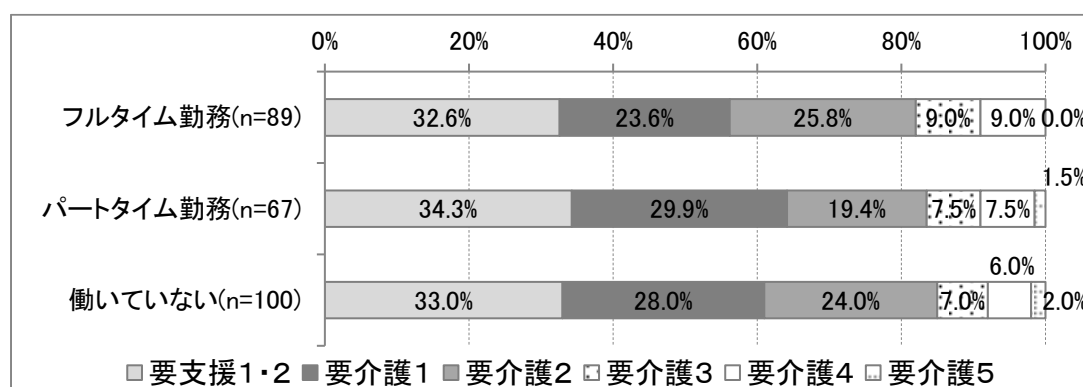
図表 2-3 就労状況別・主な介護者の年齢<***>



【就労状況別・要介護度】

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要支援１・２」が32.6%と最も割合が高く、次いで「要介護２」が25.8%、「要介護１」が23.6%となっている。「パートタイム勤務」では「要支援１・２」が34.3%と最も割合が高く、次いで「要介護１」が29.9%、「要介護２」が19.4%となっている。「働いていない」では「要支援１・２」が33.0%と最も割合が高く、次いで「要介護１」が28.0%、「要介護２」が24.0%となっている。

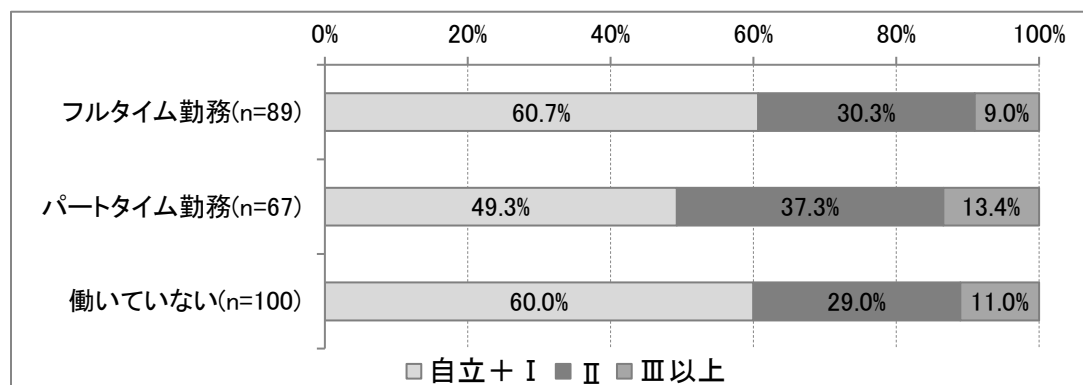
図表 2-4 就労状況別・要介護度



【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「自立＋Ⅰ」が60.7%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が30.3%、「Ⅲ以上」が9.0%となっている。「パートタイム勤務」では「自立＋Ⅰ」が49.3%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が37.3%、「Ⅲ以上」が13.4%となっている。「働いていない」では「自立＋Ⅰ」が60.0%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が29.0%、「Ⅲ以上」が11.0%となっている。

図表 2-5 就労状況別・認知症自立度



(2) 就労状況別の就労継続見込み

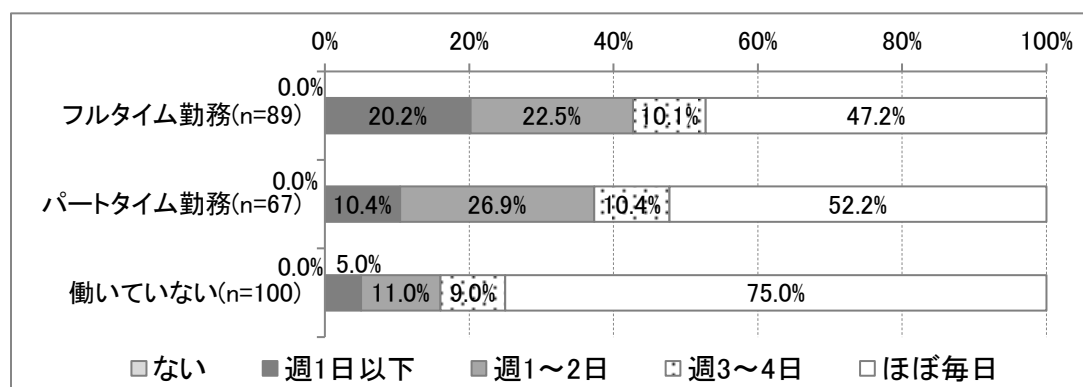
【着目すべきポイント】

- ここでは、「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています（図表 2-6、図表 2-7）。
- 「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」人と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。
- 「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができます。
- なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の2つの指標に着目しています（図表 2-8、図表 2-9）。

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が47.2%ともっとも割合が高く、次いで「週1～2日」が22.5%、「週1日以下」が20.2%となっている。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が52.2%ともっとも割合が高く、次いで「週1～2日」が26.9%、「週1日以下」、「週3～4日」が10.4%となっている。「働いていない」では「ほぼ毎日」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「週1～2日」が11.0%、「週3～4日」が9.0%となっている。

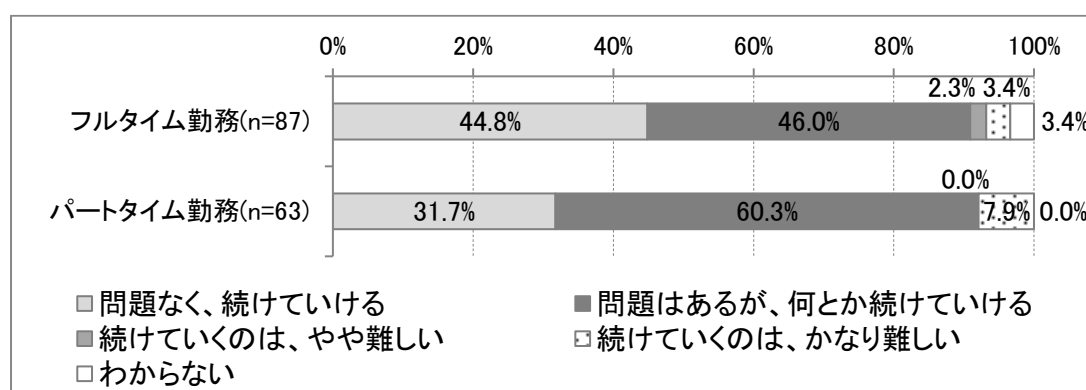
図表 2-6 就労状況別・家族等による介護の頻度<***>



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が46.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が44.8%、「続けていくのは、かなり難しい」、「わからない」が3.4%となっている。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が60.3%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が31.7%、「続けていくのは、かなり難しい」が7.9%となっている。

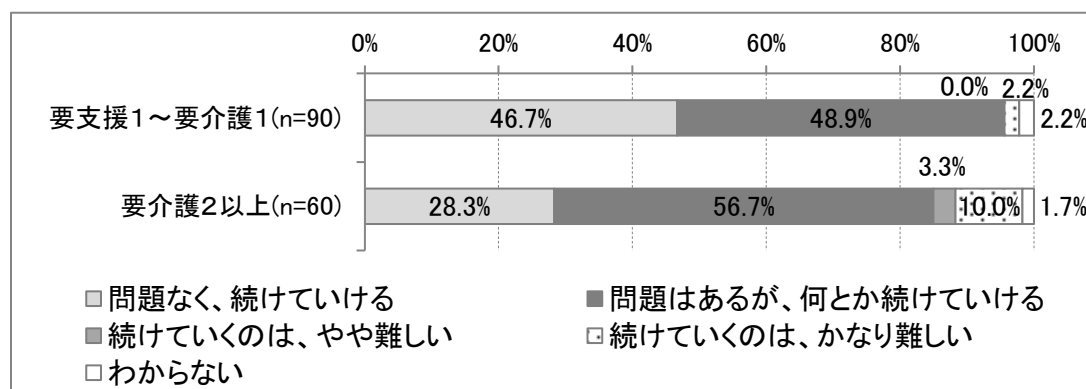
図表 2-7 就労状況別・就労継続見込み<+>



【要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が48.9%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が46.7%、「続けていくのは、かなり難しい」、「わからない」が2.2%となっている。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が56.7%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が28.3%、「続けていくのは、かなり難しい」が10.0%となっている。

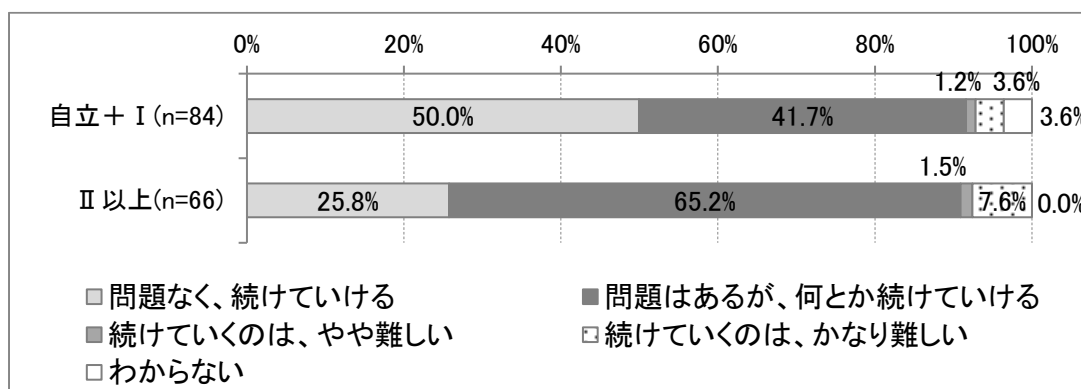
図表 2-8 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）<*>



【認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「問題なく、続けていける」が50.0%と最も割合が高く、次いで「問題はあるが、何とか続けていける」が41.7%、「続けていくのは、かなり難しい」が3.6%となっている。「Ⅱ以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が65.2%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が25.8%、「続けていくのは、かなり難しい」が7.6%となっている。

図表 2-9 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）＜＊＞



(3) 「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

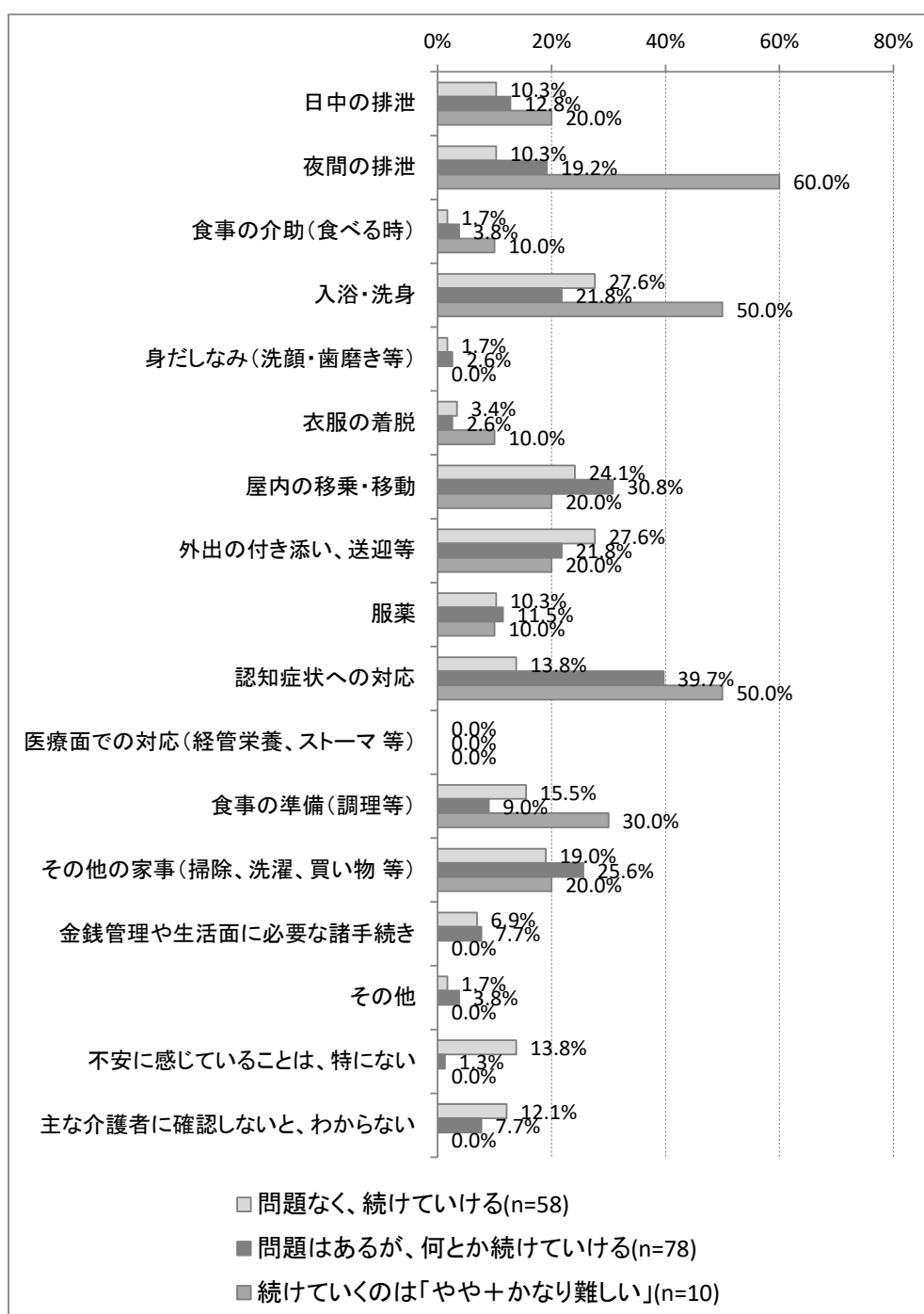
【着目すべきポイント】

- ここでは、「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-10～図表 2-13）。
- 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。

【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」が27.6%と最も割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」が24.1%、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が19.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「認知症状への対応」が39.7%と最も割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」が30.8%、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が25.6%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」では「夜間の排泄」が60.0%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が50.0%、「食事の準備(調理等)」が30.0%となっている。

図表 2-10 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

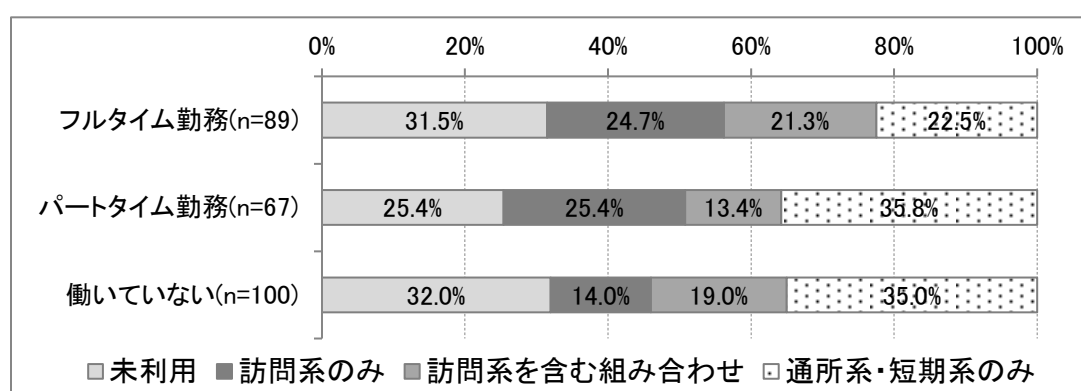
【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護2以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています（図表2-12、図表2-13）。
- ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差がみられるかどうかを把握することができます。
- また、「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「未利用」が31.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が24.7%、「通所系・短期系のみ」が22.5%となっている。「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が35.8%と最も割合が高く、次いで「未利用」「訪問系のみ」が25.4%、「訪問系を含む組み合わせ」が13.4%となっている。「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が35.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が32.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が19.0%となっている。

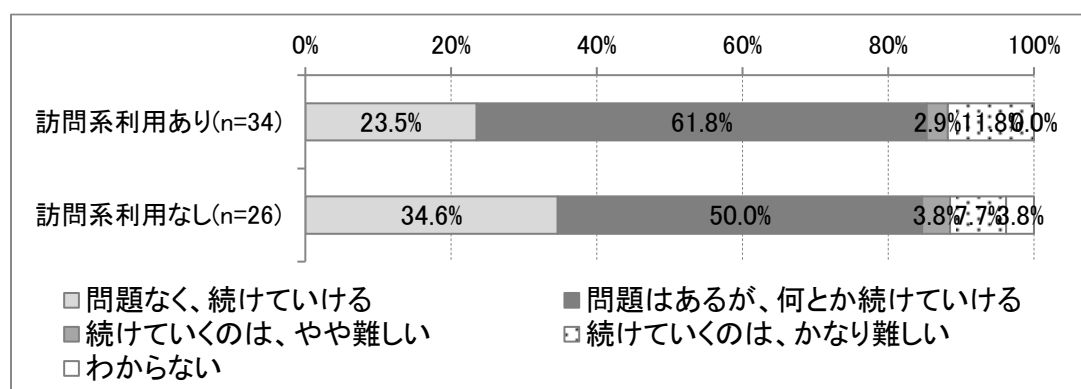
図表 2-11 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が61.8%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が23.5%、「続けていくのは、かなり難しい」が11.8%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が50.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が34.6%、「続けていくのは、かなり難しい」が7.7%となっている。

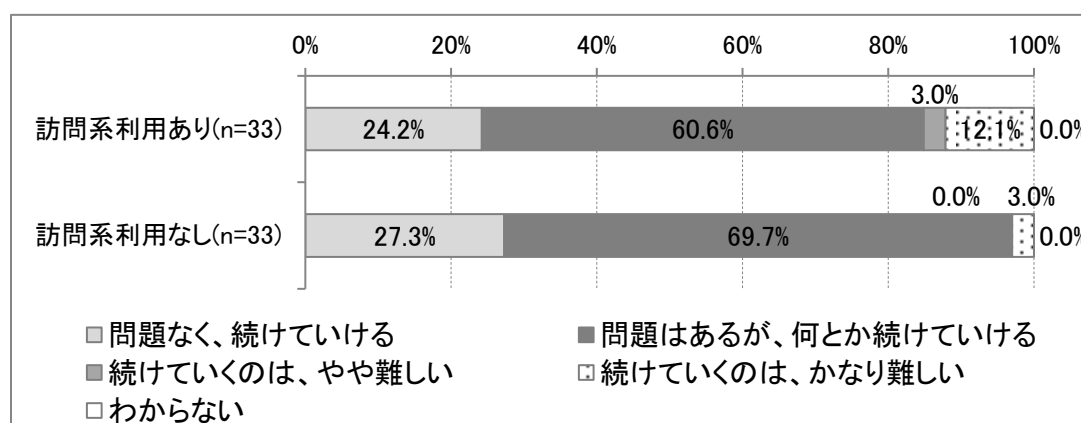
図表 2-12 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が60.6%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が24.2%、「続けていくのは、かなり難しい」が12.1%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が69.7%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が27.3%、「続けていくのは、かなり難しい」が3.0%となっている。

図表 2-13 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



(5) 就労状況別の、施設等検討の状況

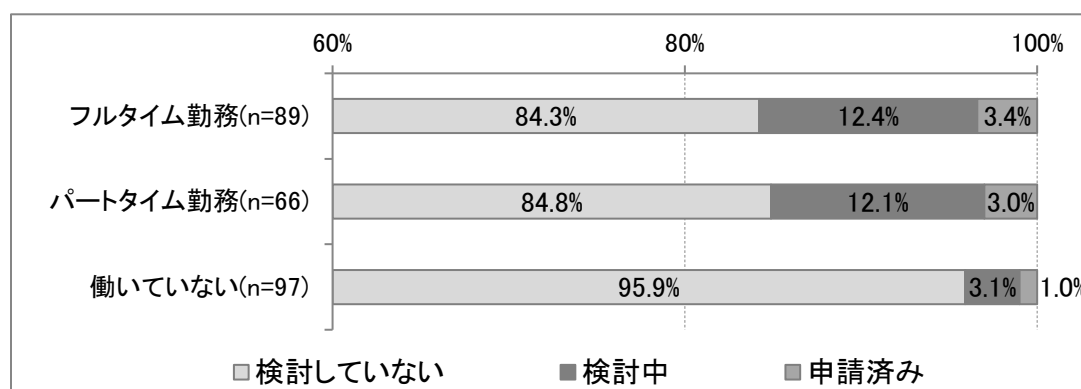
【着目すべきポイント】

- ここでは、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-14～図表 2-15）。
- 「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としています。
- さらに、要介護2以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える人のうち、どの程度の人が施設を検討しているかに着目しています。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性和、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができます。

【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が84.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が12.4%、「申請済み」が3.4%となっている。「パートタイム勤務」では「検討していない」が84.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が12.1%、「申請済み」が3.0%となっている。「働いていない」では「検討していない」が95.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が3.1%、「申請済み」が1.0%となっている。

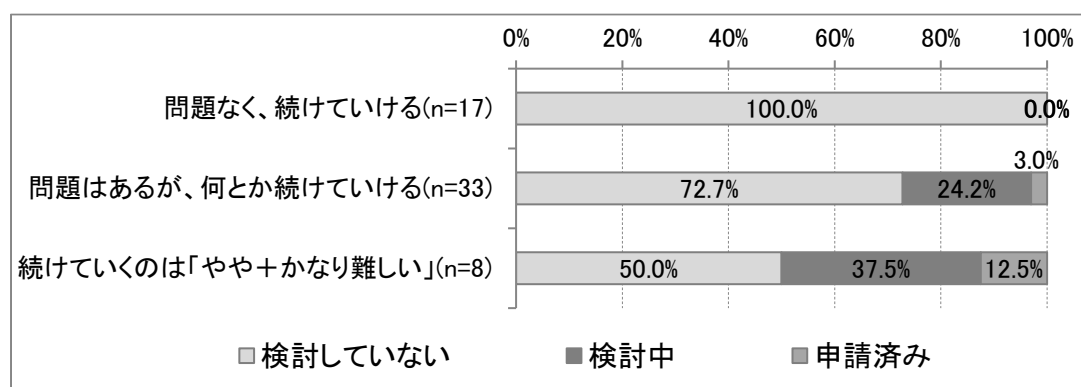
図表 2-14 就労状況別・施設等検討の状況<+>



【就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務)】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「検討していない」が100.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が72.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が24.2%、「申請済み」が3.0%となっている。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「検討していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が37.5%、「申請済み」が12.5%となっている。

図表 2-15 就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）＜＊＞



(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整

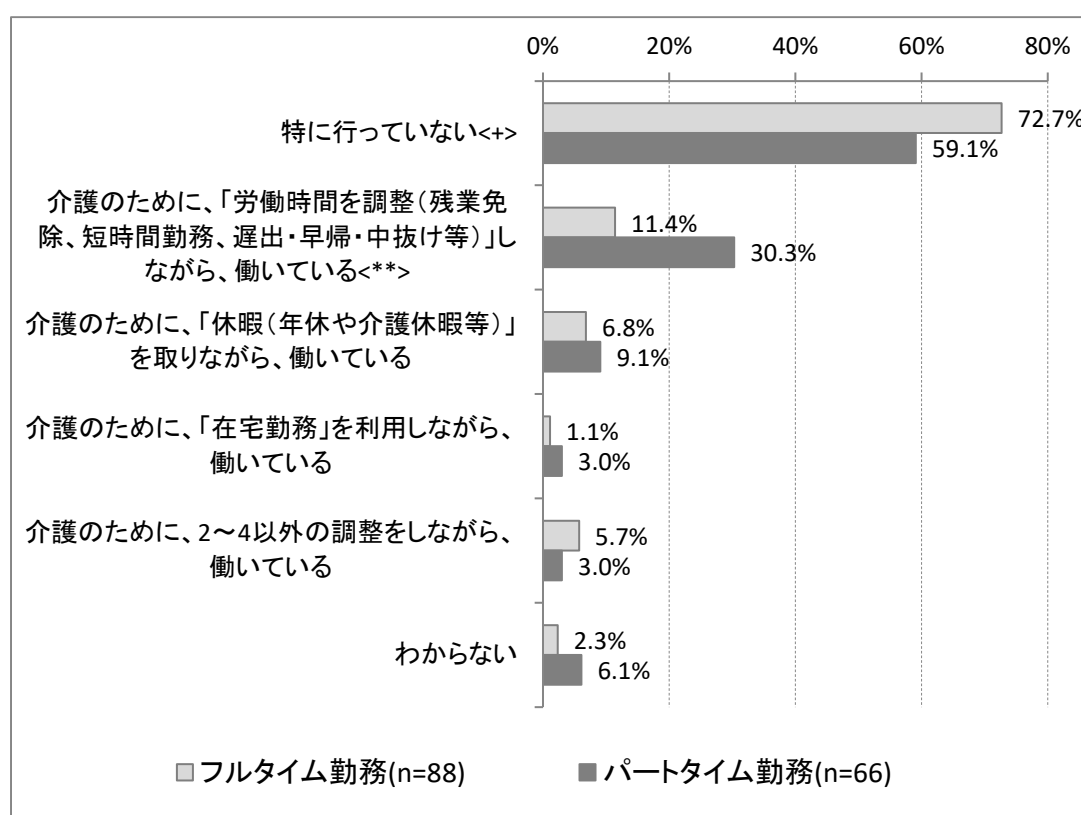
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護のための働き方の調整」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-16～図表 2-17）。
- 就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。
- ただし、「問題なく、続けていける」とする人において、働き方の調整を「特に行っていない」割合は、職場が恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況にはなく、介護のために特段働き方の調整や勤め先からの支援を行わなくても、両立可能な職場であることが考えられます。
- このように、職場の状況や業務の内容によっても、必要な調整や支援の内容が異なることに留意することが必要です。

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が72.7%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が11.4%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が6.8%となっている。「パートタイム勤務」では「特に行っていない」が59.1%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が30.3%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が9.1%となっている。

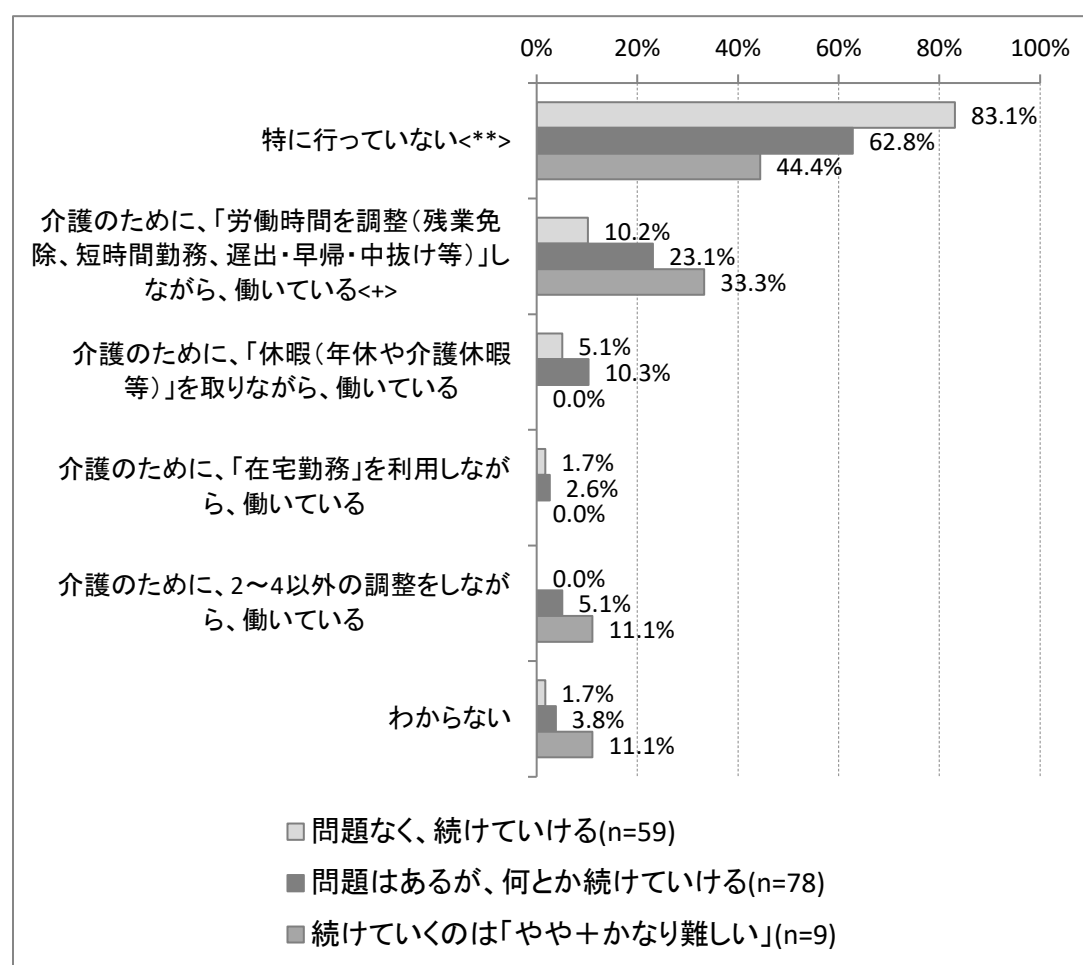
図表 2-16 就労状況別・介護のための働き方の調整



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が83.1%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が10.2%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が5.1%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「特に行っていない」が62.8%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が23.1%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が10.3%となっている。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「特に行っていない」が44.4%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が33.3%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」、「わからない」が11.1%となっている。

図表 2-17 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



3 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

3.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。
- 将来の高齢世帯の世帯タイプの構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

3.2 集計結果と着目すべきポイント

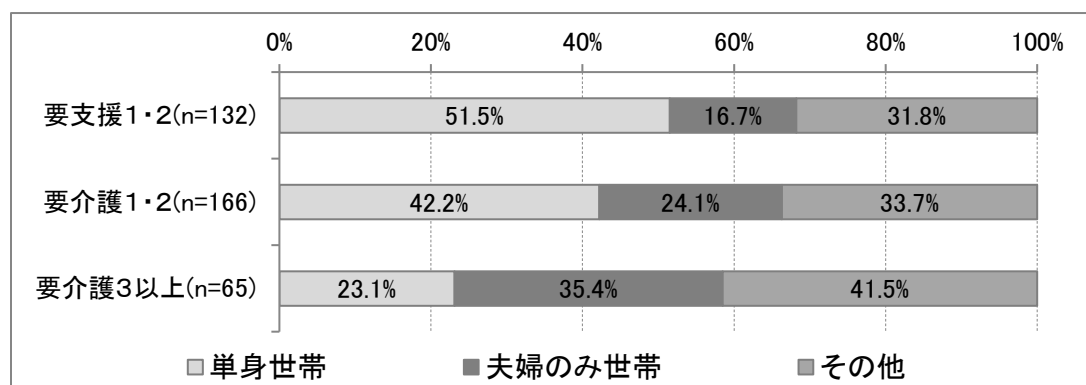
(1) 基礎集計

- 「要介護度別の世帯タイプの割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています（図表 3-1、図表 3-2）。
- 要介護度の重度化に伴う、世帯類型の変化などを確認します。

【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要支援 1・2」では「単身世帯」が 51.5%と最も割合が高く、次いで「その他」が 31.8%、「夫婦のみ世帯」が 16.7%となっている。「要介護 1・2」では「単身世帯」が 42.2%と最も割合が高く、次いで「その他」が 33.7%、「夫婦のみ世帯」が 24.1%となっている。「要介護 3 以上」では「その他」が 41.5%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が 35.4%、「単身世帯」が 23.1%となっている。

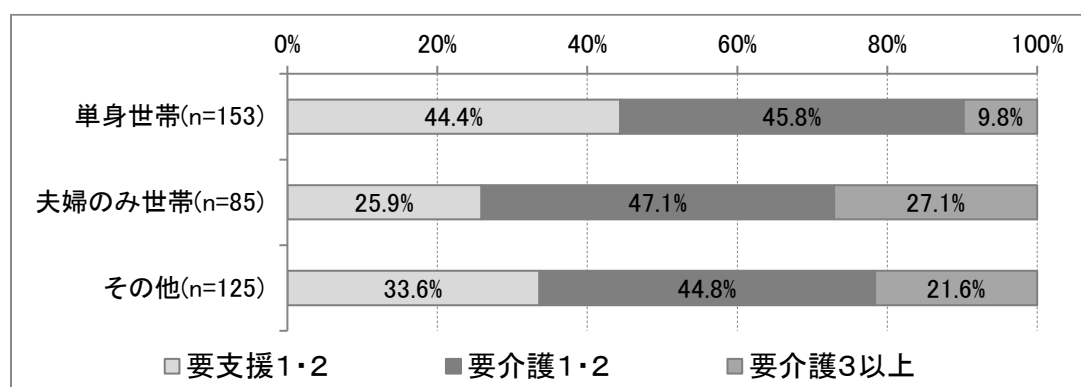
図表 3-1 要介護度別・世帯類型<**>



【世帯類型別・要介護度】

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要介護１・２」が４５．８％ともっとも割合が高く、次いで「要支援１・２」が４４．４％、「要介護３以上」が９．８％となっている。「夫婦のみ世帯」では「要介護１・２」が４７．１％ともっとも割合が高く、次いで「要介護３以上」が２７．１％、「要支援１・２」が２５．９％となっている。「その他」では「要介護１・２」が４４．８％ともっとも割合が高く、次いで「要支援１・２」が３３．６％、「要介護３以上」が２１．６％となっている。

図表 3-2 世帯類型別・要介護度<**>



(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

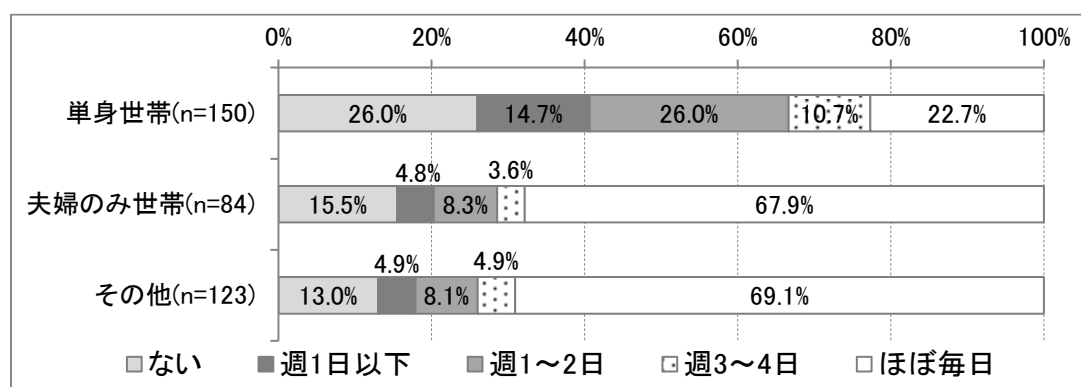
【着目すべきポイント】

- 図表 3-3 では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、図表 3-4～図表 3-6 では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。
- 「単身世帯」については、同居の家族等はいなくても、近居の家族等による介護が行われているケースも多いと考えられます。中重度の単身世帯のうち、家族等の介護がない中で在宅生活を送っているケースがどの程度あるかなど、現状についてご確認ください。

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「ない」、「週 1～2 日」が 26.0%ともっとも割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が 22.7%、「週 1 日以下」が 14.7%となっている。「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が 67.9%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 15.5%、「週 1～2 日」が 8.3%となっている。「その他」では「ほぼ毎日」が 69.1%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 13.0%、「週 1～2 日」が 8.1%となっている。

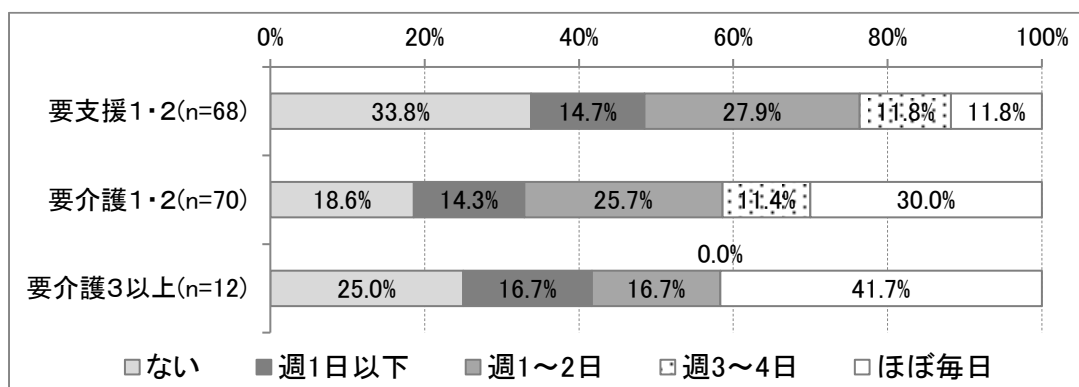
図表 3-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度<***>



【要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「ない」が 33.8%と最も割合が高く、次いで「週１～２日」が 27.9%、「週１日以下」が 14.7%となっている。「要介護１・２」では「ほぼ毎日」が 30.0%と最も割合が高く、次いで「週１～２日」が 25.7%、「ない」が 18.6%となっている。「要介護３以上」では「ほぼ毎日」が 41.7%と最も割合が高く、次いで「ない」が 25.0%、「週１日以下」、「週１～２日」が 16.7%となっている。

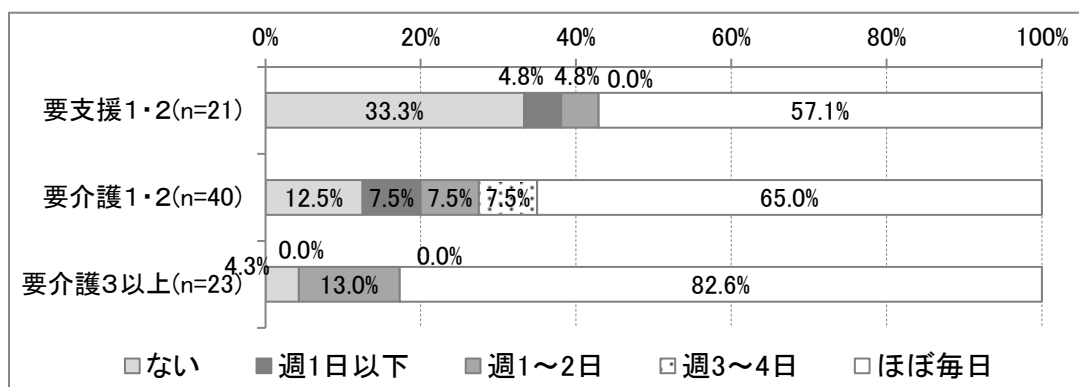
図表 3-4 要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



【要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「ほぼ毎日」が 57.1%と最も割合が高く、次いで「ない」が 33.3%、「週１日以下」、「週１～２日」が 4.8%となっている。「要介護１・２」では「ほぼ毎日」が 65.0%と最も割合が高く、次いで「ない」が 12.5%、「週１日以下」、「週１～２日」、「週３～４日」が 7.5%となっている。「要介護３以上」では「ほぼ毎日」が 82.6%と最も割合が高く、次いで「週１～２日」が 13.0%、「ない」が 4.3%となっている。

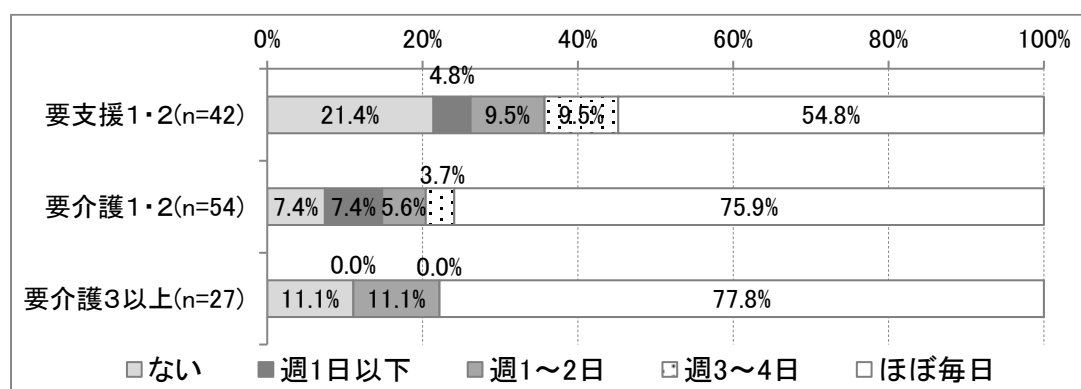
図表 3-5 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）<+>



【要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ほぼ毎日」が54.8%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が21.4%、「週1～2日」、「週3～4日」が9.5%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が75.9%ともっとも割合が高く、次いで「ない」、「週1日以下」が7.4%、「週1～2日」が5.6%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が77.8%ともっとも割合が高く、次いで「ない」、「週1～2日」が11.1%となっている。

図表 3-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

【着目すべきポイント】

- 要介護度別・認知症自立度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 3-7～図表 3-12）。
- サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に簡略化したものを使用しています。
- 重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを、世帯類型別に把握することができます。
- また、世帯類型別の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。
- 例えば、特に今後「要介護度が中重度の単身世帯」が増加すると見込まれる場合は、単身世帯の要介護者が要介護度の重度化に伴いどのようなサービス利用の組み合わせを増加させているかに着目し、推測することなどが考えられます。

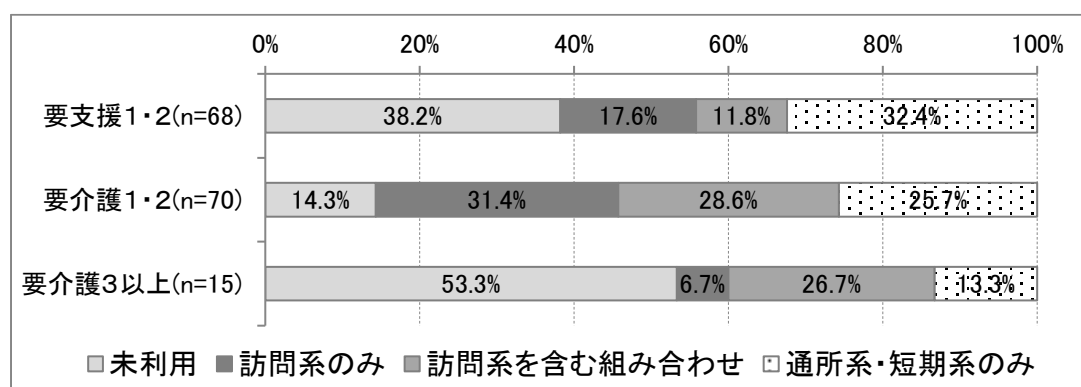
【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が38.2%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が32.4%、「訪問系のみ」が17.6%となっている。「要介護１・２」では「訪問系のみ」が31.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が28.6%、「通所系・短期系のみ」が25.7%となっている。「要介護３以上」では「未利用」が53.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.7%、「通所系・短期系のみ」が13.3%となっている。

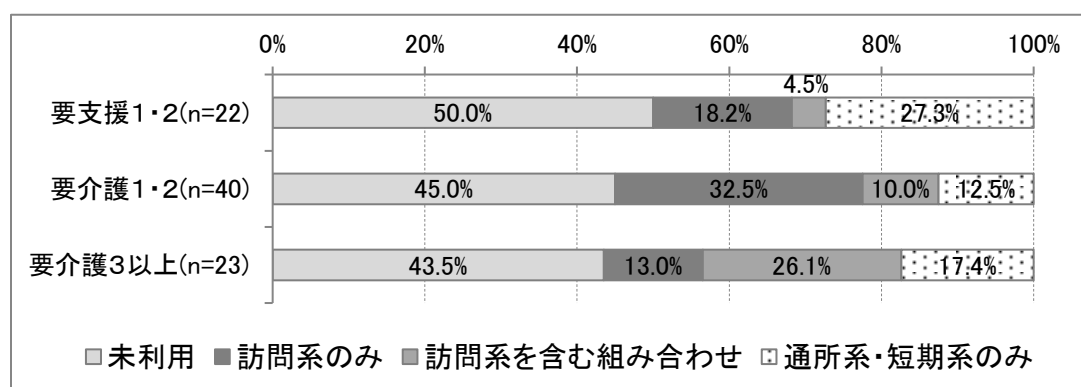
図表 3-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）<**>



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が50.0%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.3%、「訪問系のみ」が18.2%となっている。「要介護１・２」では「未利用」が45.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が32.5%、「通所系・短期系のみ」が12.5%となっている。「要介護３以上」では「未利用」が43.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が26.1%、「通所系・短期系のみ」が17.4%となっている。

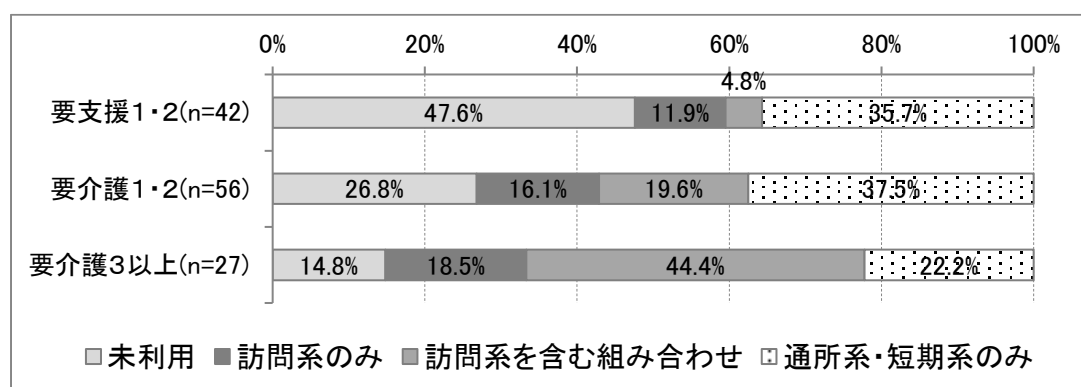
図表 3-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が47.6%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が35.7%、「訪問系のみ」が11.9%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が37.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」が26.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が19.6%となっている。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が44.4%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が22.2%、「訪問系のみ」が18.5%となっている。

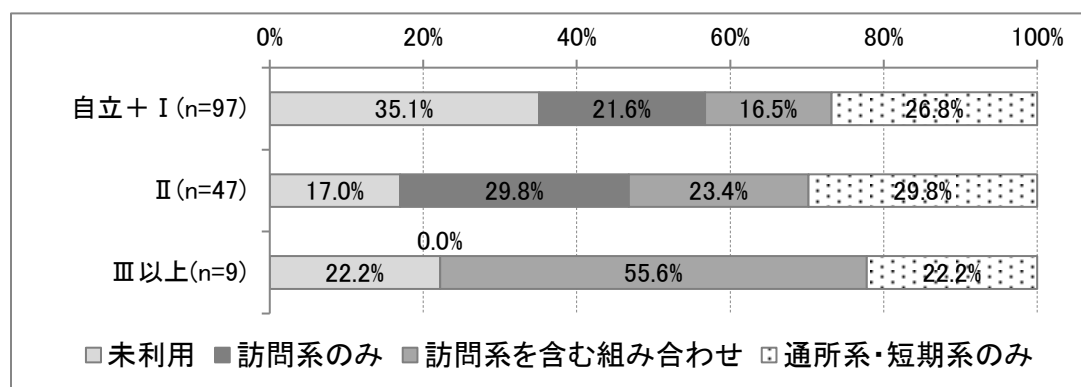
図表 3-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯) <**>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「未利用」が35.1%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が26.8%、「訪問系のみ」が21.6%となっている。「Ⅱ」では「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が29.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が23.4%、「未利用」が17.0%となっている。「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が55.6%と最も割合が高く、次いで「未利用」、「通所系・短期系のみ」が22.2%となっている。

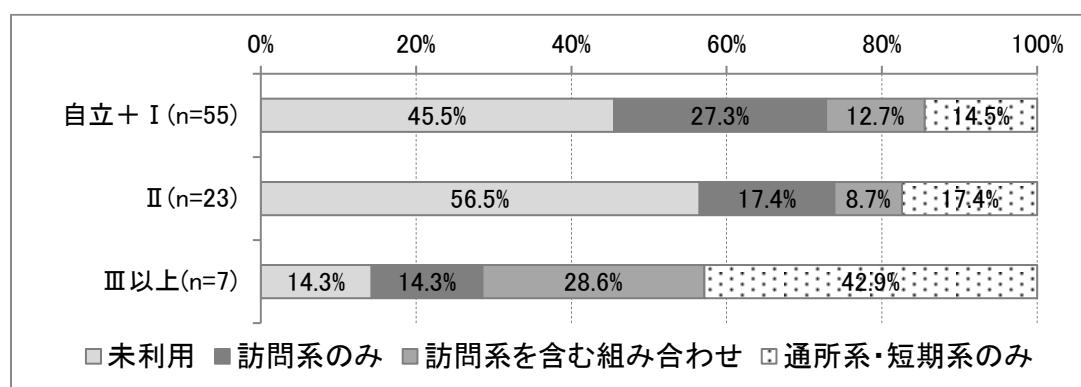
図表 3-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯) <*>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が45.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が27.3%、「通所系・短期系のみ」が14.5%となっている。「Ⅱ」では「未利用」が56.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が17.4%、「訪問系を含む組み合わせ」が8.7%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が42.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が28.6%、「未利用」、「訪問系のみ」が14.3%となっている。

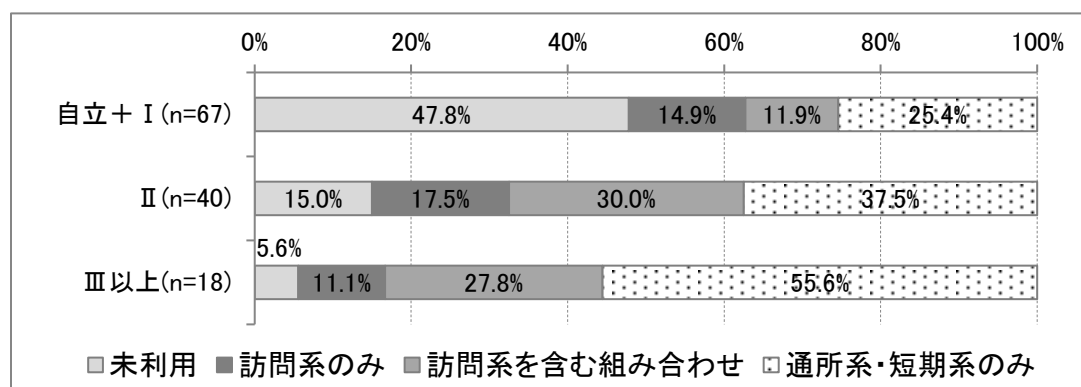
図表 3-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が47.8%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が25.4%、「訪問系のみ」が14.9%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が37.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が30.0%、「訪問系のみ」が17.5%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が55.6%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が27.8%、「訪問系のみ」が11.1%となっている。

図表 3-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）＜**＞



(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

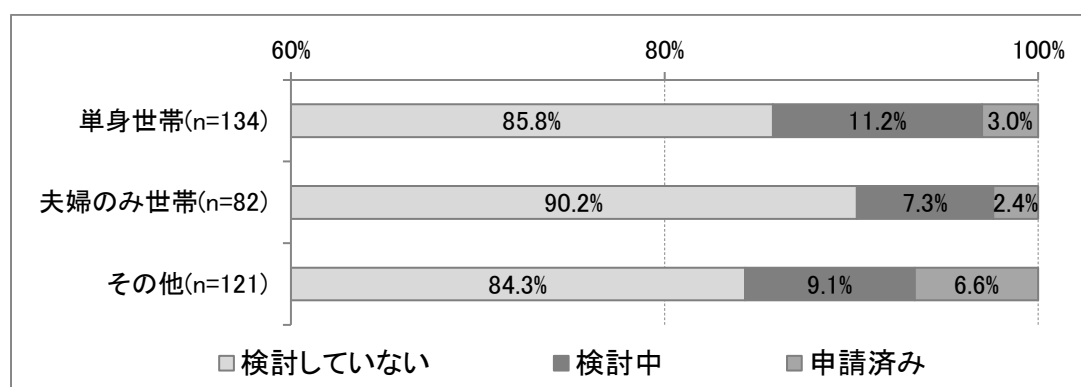
【着目すべきポイント】

- ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています（図表 3-13～図表 3-19）。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「世帯類型」ごとの特徴を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

【世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が 85.8% ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 11.2%、「申請済み」が 3.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が 90.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 7.3%、「申請済み」が 2.4%となっている。「その他」では「検討していない」が 84.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 9.1%、「申請済み」が 6.6%となっている。

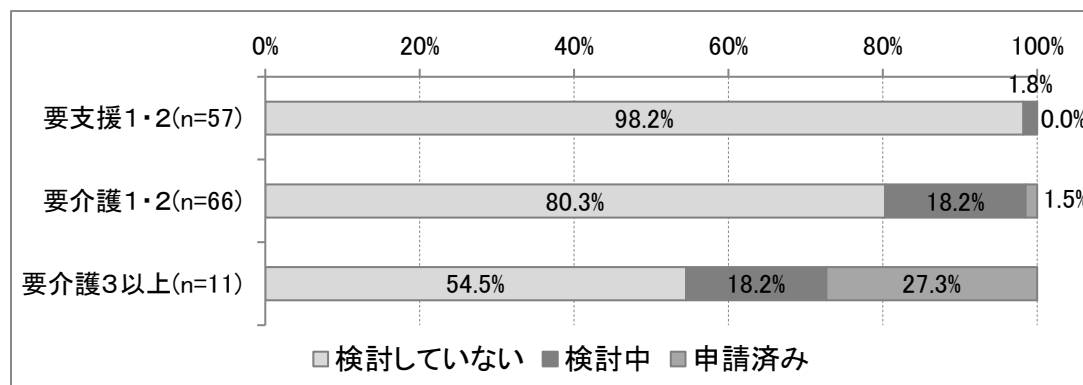
図表 3-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）



【要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が98.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が1.8%となっている。「要介護１・２」では「検討していない」が80.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.2%、「申請済み」が1.5%となっている。「要介護３以上」では「検討していない」が54.5%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が27.3%、「検討中」が18.2%となっている。

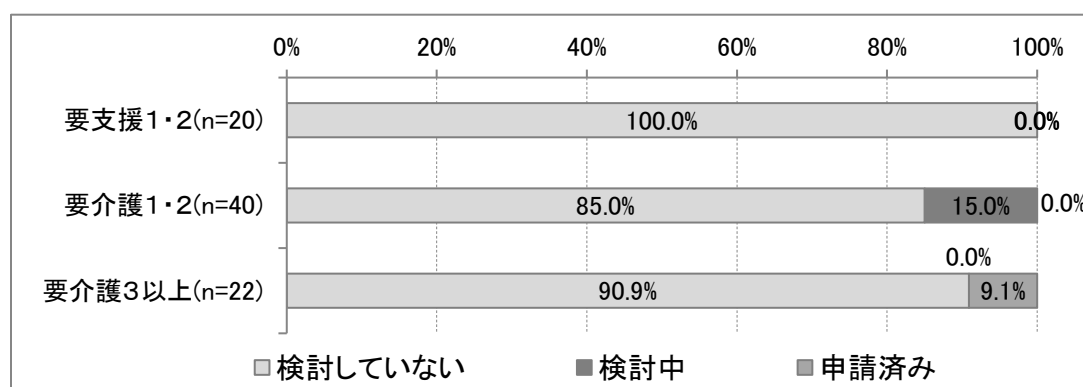
図表 3-14 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）＜***＞



【要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が100.0%となっている。「要介護１・２」では「検討していない」が85.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が15.0%となっている。「要介護３以上」では「検討していない」が90.9%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が9.1%となっている。

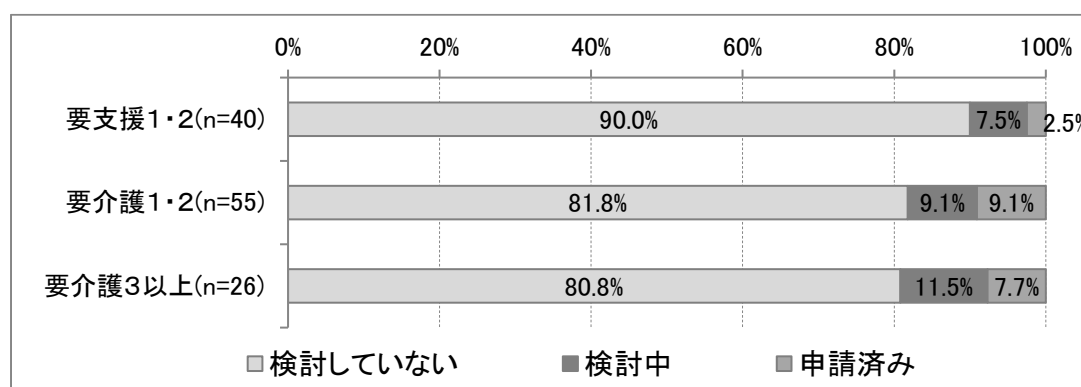
図表 3-15 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）＜*＞



【要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が90.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が7.5%、「申請済み」が2.5%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が81.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が9.1%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が80.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.5%、「申請済み」が7.7%となっている。

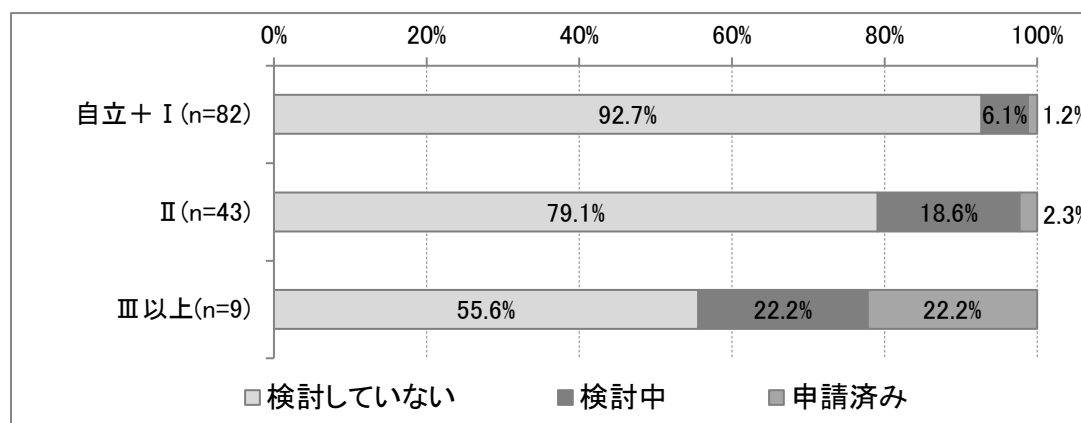
図表 3-16 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



【認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「検討していない」が92.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が6.1%、「申請済み」が1.2%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が79.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.6%、「申請済み」が2.3%となっている。「Ⅲ以上」では「検討していない」が55.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が22.2%となっている。

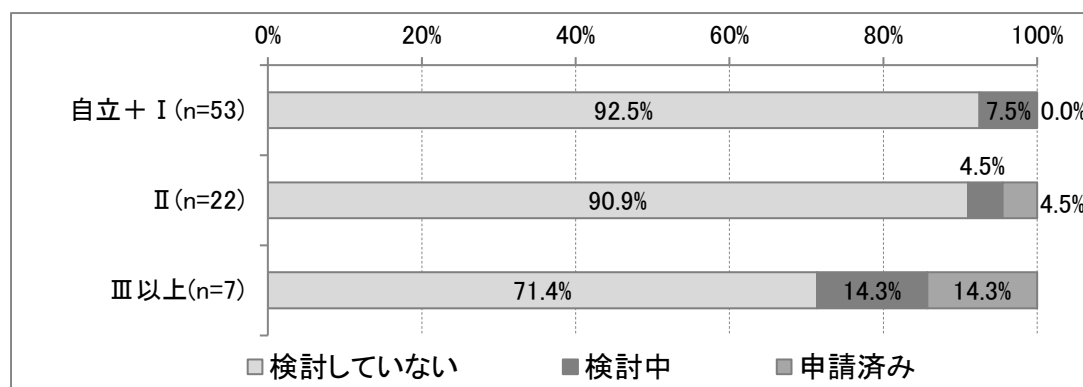
図表 3-17 認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）〈***〉



【認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」が92.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が7.5%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が90.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が4.5%となっている。「Ⅲ以上」では「検討していない」が71.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が14.3%となっている。

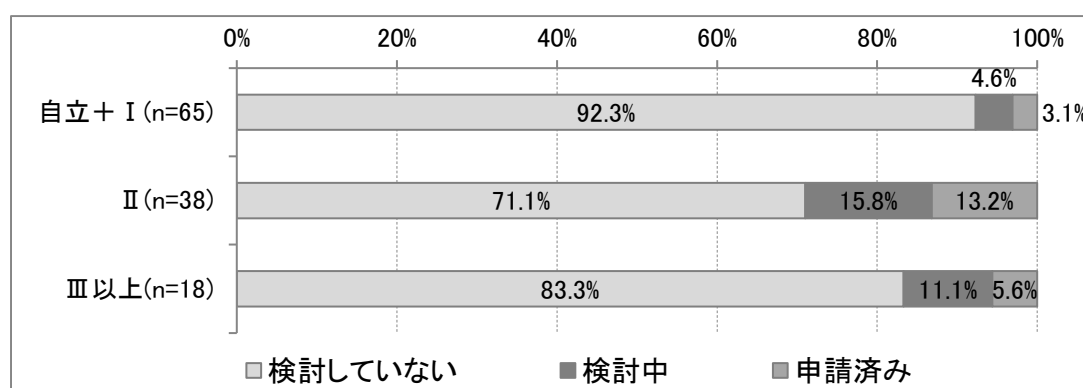
図表 3-18 認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」が92.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が4.6%、「申請済み」が3.1%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が71.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が15.8%、「申請済み」が13.2%となっている。「Ⅲ以上」では「検討していない」が83.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.1%、「申請済み」が5.6%となっている。

図表 3-19 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）<+>



4 サービス未利用の理由など

4.1 集計・分析の狙い

- ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられ集計結果を整理しています。
- 主要なデータは、テーマ1～テーマ4において整理をしていますが、ここで整理する集計結果も必要に応じてご活用ください。

4.2 集計結果（参考）

【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「65歳未満」では「60歳代」が100.0%となっている。「65～69歳」では「60歳代」が57.1%ともっとも割合が高く、次いで「40歳代」、「50歳代」、「70歳代」が14.3%、「40歳未満」となっている。「70歳代」では「70歳代」が34.8%ともっとも割合が高く、次いで「50歳代」が21.7%、「80歳以上」が17.4%となっている。「80歳代」では「60歳代」が35.9%ともっとも割合が高く、次いで「50歳代」が33.3%、「80歳以上」が17.0%となっている。「90歳以上」では「60歳代」が51.7%ともっとも割合が高く、次いで「70歳代」が25.8%、「50歳代」が13.5%となっている。

図表 4-1 本人の年齢別・主な介護者の年齢<***>

